



下水道モニター
令和3年度 第2回アンケート結果

東京都下水道局では、様々な事業を行っています。

下水道モニターアンケート第2回では、浸水防止対策や「東京アメッシュ」についてアンケートしました。

- ◆ 実施期間 令和3年7月30日(金)～8月13日(金)の14日間
- ◆ 対象者 東京都下水道局「令和3年度下水道モニター」
※東京都在住20歳以上の男女個人
- ◆ 回答者数 697名
- ◆ 調査方法 ウェブ形式による自記式アンケート
- ◆ 内容

I	結果の概要.....	1
1	東京都下水道局が行っている浸水対策の取組.....	1
2	家庭での浸水対策の取組.....	2
3	「東京アメッシュ」に関する設問.....	4
4	局へのご意見・ご要望.....	6
II	回答者の属性.....	7
1	回答者数（性別、年代、地域、職業）.....	7
2	回答者属性別グラフ.....	8
III	集計結果.....	9
1	東京都下水道局が行っている浸水対策の取組.....	9
2	家庭での浸水対策の取組.....	27
3	「東京アメッシュ」に関する設問.....	37
4	局へのご意見・ご要望.....	43

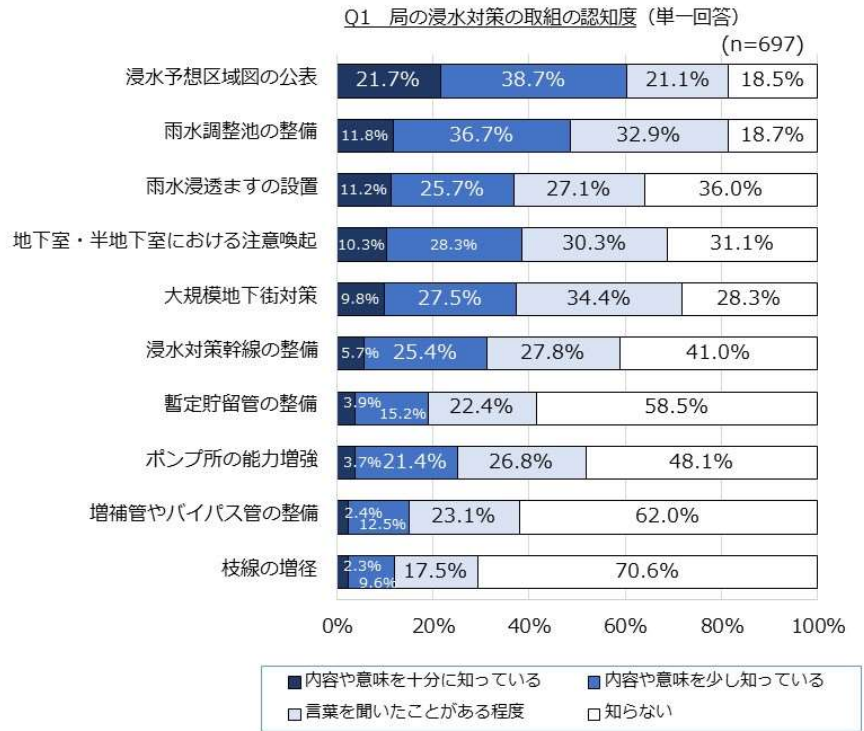
構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100とはならない場合があります。

I 結果の概要

1 東京都下水道局が行っている浸水対策の取組

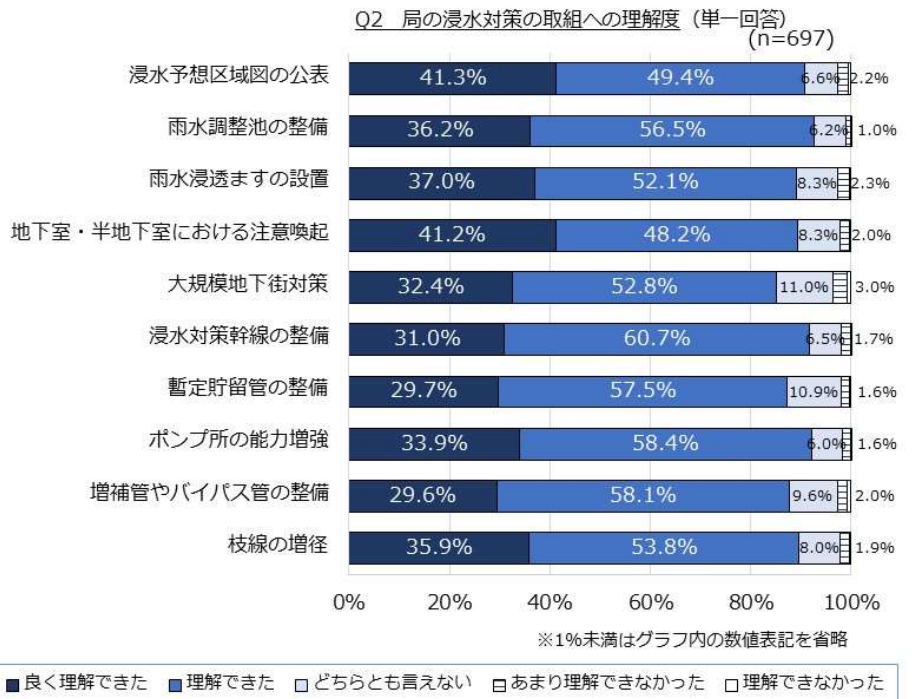
(1) 浸水対策の取組の内容 や意味の認知度

局の浸水対策の各種取組への認知度は「浸水予想区域図の公表」が最も高く、次いで「雨水調整池の整備」が続いた。



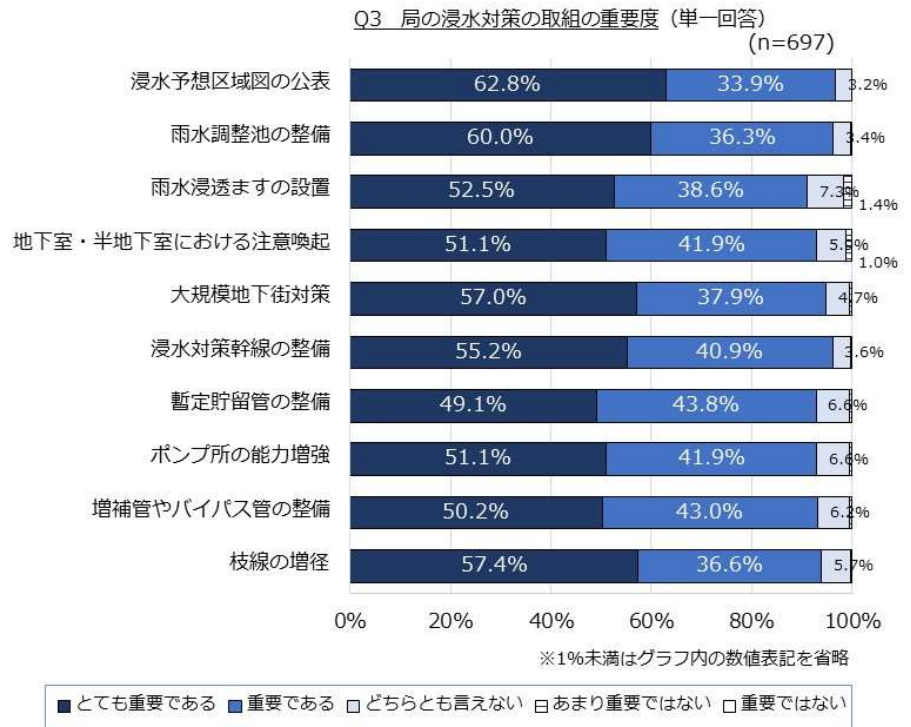
(2) 浸水対策の取組への理解

浸水対策のイメージと具体策提示したのち、各取組への理解を尋ねたところ、いずれの取組も約9割が「理解できた」と回答した。



(3) 浸水対策の取組の重要度

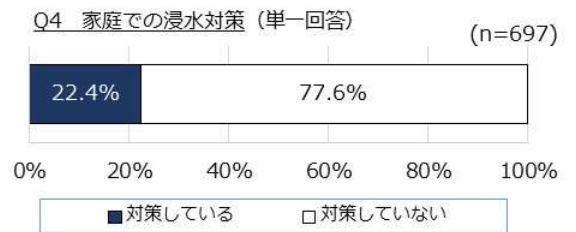
各取組をどのくらい重要と考えるかについては、いずれの取組も9割以上が「重要」と回答した。



2 家庭での浸水対策の取組

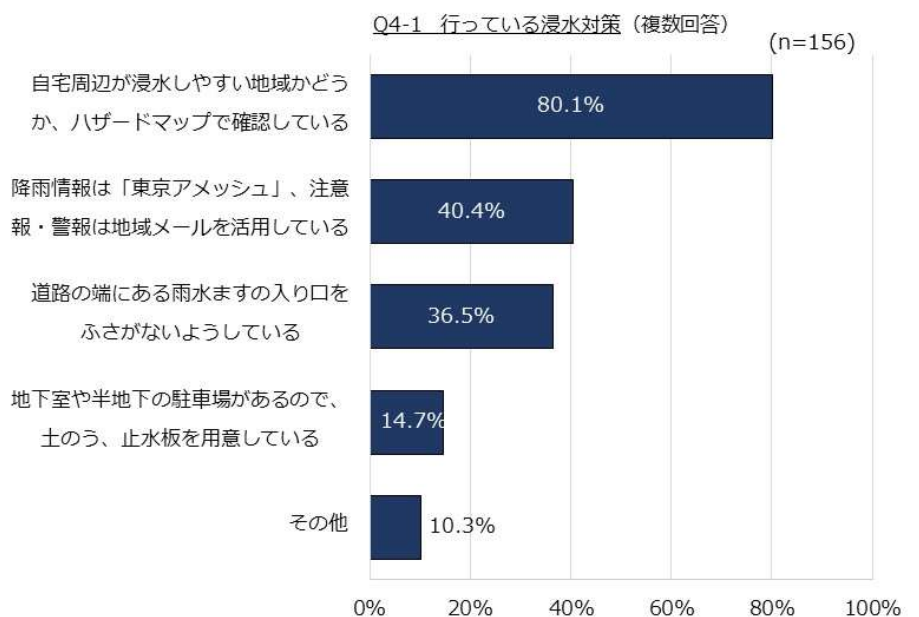
(1) 家庭での浸水対策実施の有無

家庭で浸水対策を実施しているのは、回答者の約2割だった。



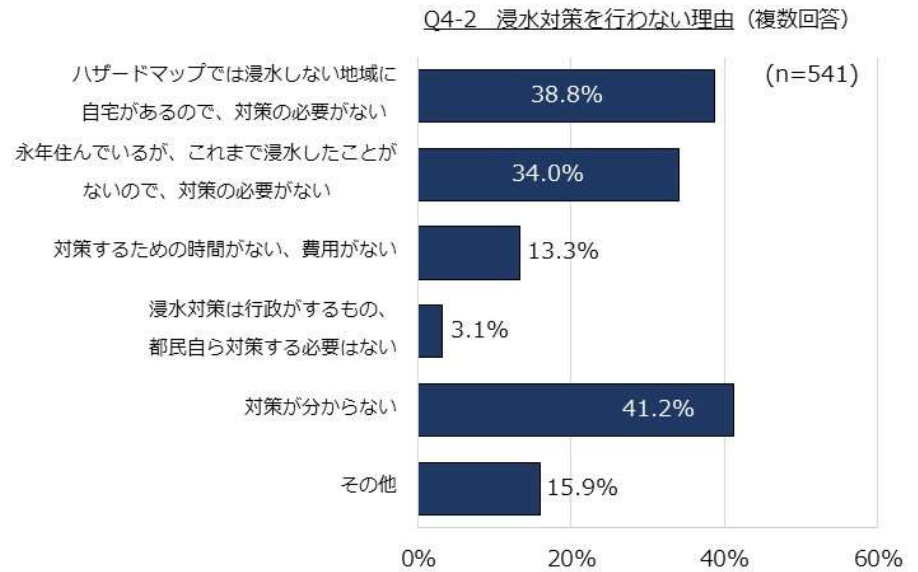
(2) 行っている浸水対策

2(1)(Q4)で対策を行っていると回答した156人が家庭で行っている浸水対策は、「ハザードマップで確認」が約8割と最も多く、次いで「東京アメッシュ」や地域メールを活用」が約4割だった。



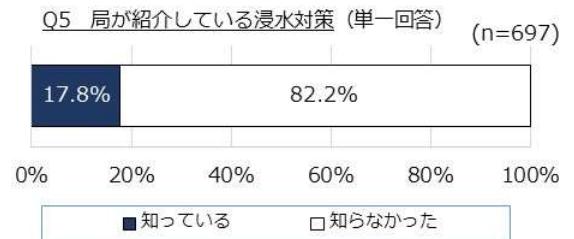
(3) 浸水対策を行わない理由

2(1)(Q4)で対策を行っていないと回答した(541人)理由は、約4割が「策がわからない」と回答した。次いで「ハザードマップでは浸水しない地域に自宅があるので、対策の必要がない」、「長年住んでいるが、これまで浸水したことがないので、対策の必要がない」が続いた。



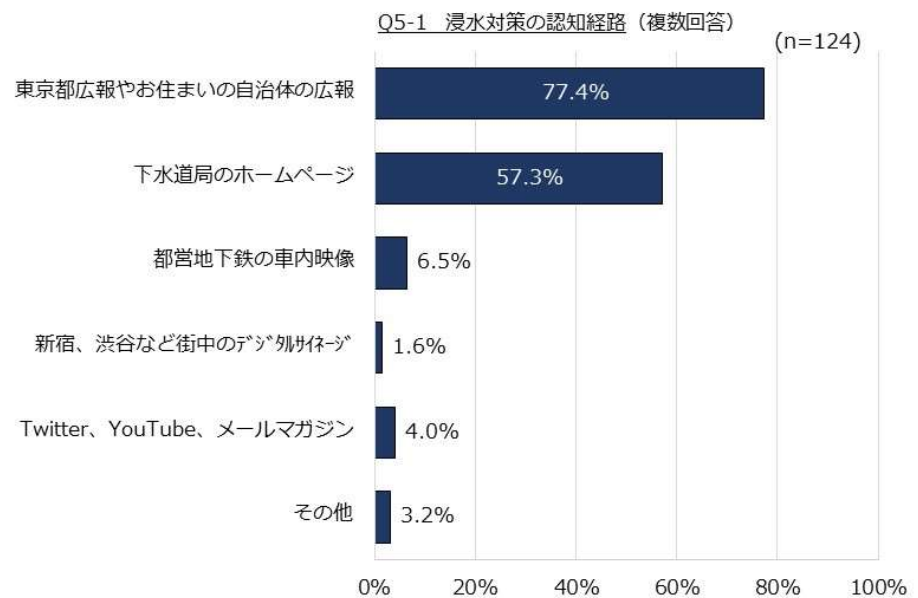
(4) 下水道局が紹介する浸水対策の認知度

下水道局が紹介している浸水対策を知っていたのは回答者の約2割弱だった。



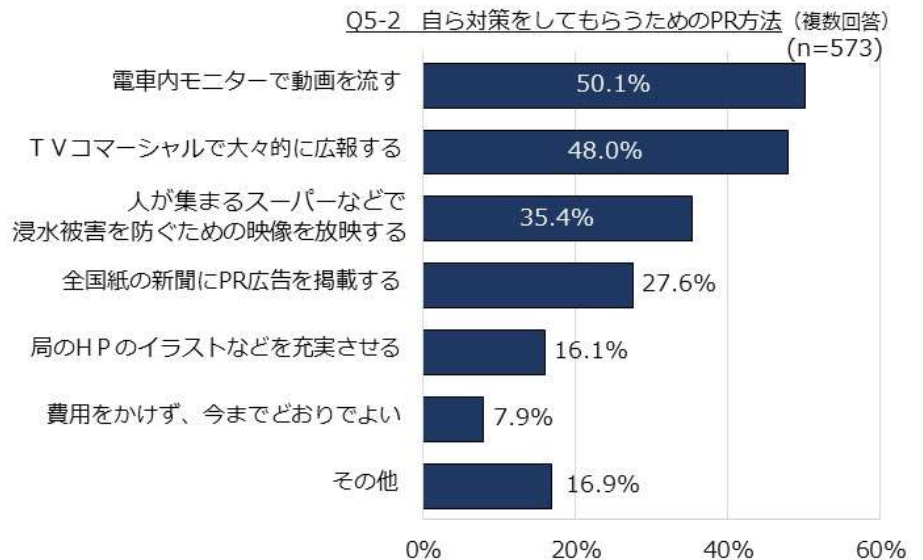
(5) 浸水対策の認知経路

2(4)(Q5)で局が紹介する浸水対策を「知っている」と回答した124人の認知経路は、自治体の広報が約8割、局ホームページが約6割だった。



(6) 浸水対策のPR方法

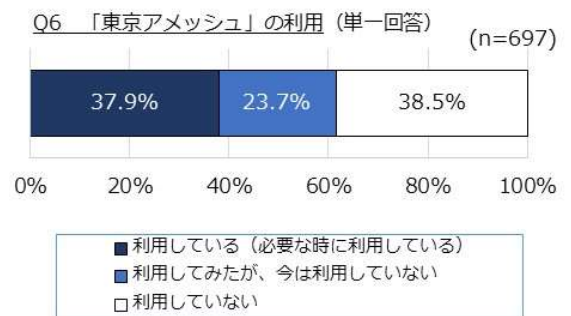
2(4)(Q5)で局が紹介する浸水対策を「知らない」と回答した573人が考える自ら対策をしようためのPR方法は「電車内モニターで動画を流す」や「TVコマーシャルで広報する」などだった。



3 「東京アメッシュ」に関する設問

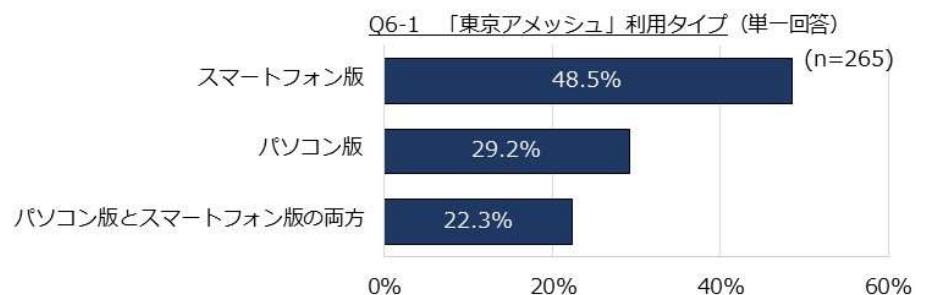
(1) 「東京アメッシュ」の利用

「東京アメッシュ」の利用経験者は第1回アンケート（「東京アメッシュ」を知っている（利用している・利用したことがある））の26.7%から、61.5%に増加した。現在も利用している人は37.9%だった。



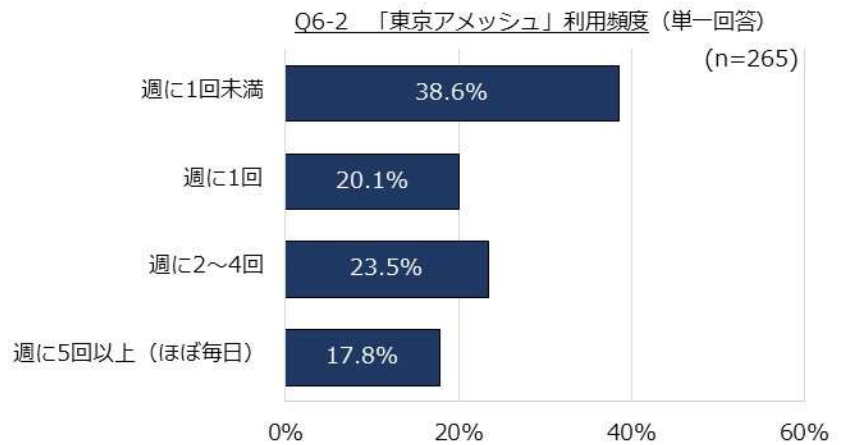
(2) 「東京アメッシュ」の利用タイプ

3(1)の利用経験の設問(Q6)で「利用している(必要な時に利用している)」と回答した265人は、「スマートフォン版」の利用が最も多かった。



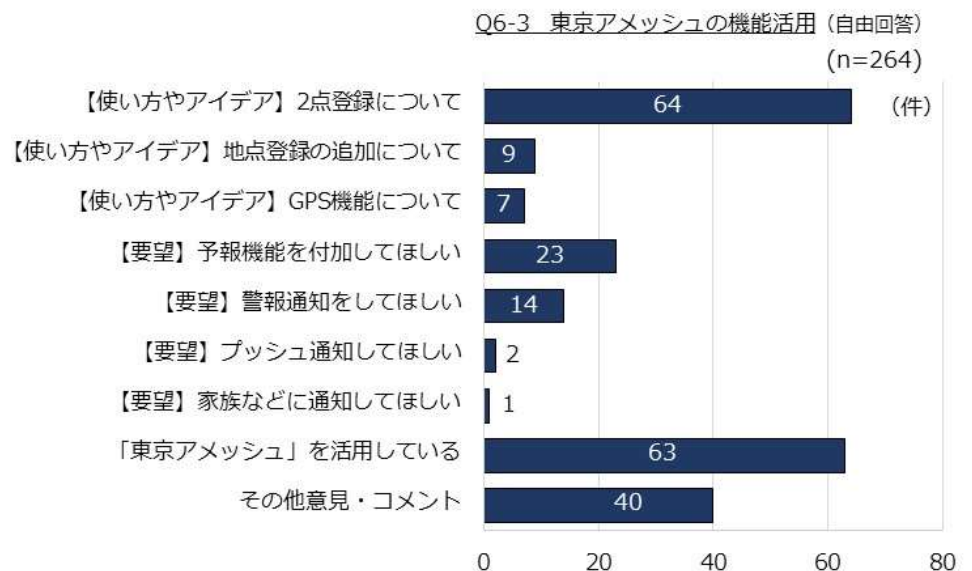
(3) 「東京アメッシュ」の利用頻度

3 (1) の利用経験の設問 (Q6) で「利用している (必要な時に利用している)」と回答した 265 人の利用頻度は「週に 1 回未満」が最も多かったが、「ほぼ毎日」も 17.8%いた。



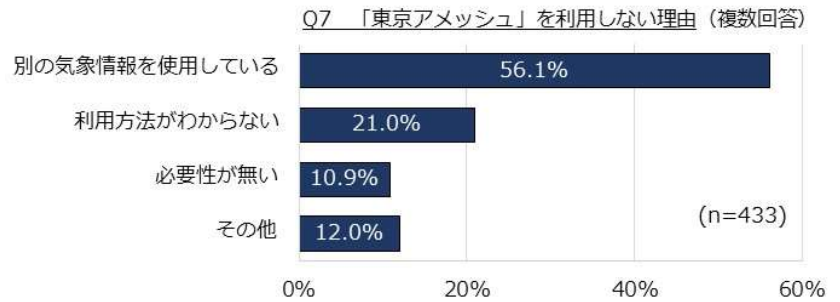
(4) 「東京アメッシュ」(スマートフォン版) の機能活用

東京アメッシュのGPS機能に関する設問に対して、自由回答は 264 件寄せられた。スマートフォン版の機能を活用した使い方や使い方に関するアイデアは 77 件で、そのほか「東京アメッシュ」を活用している感想や付加してほしい機能や要望が挙げられた。



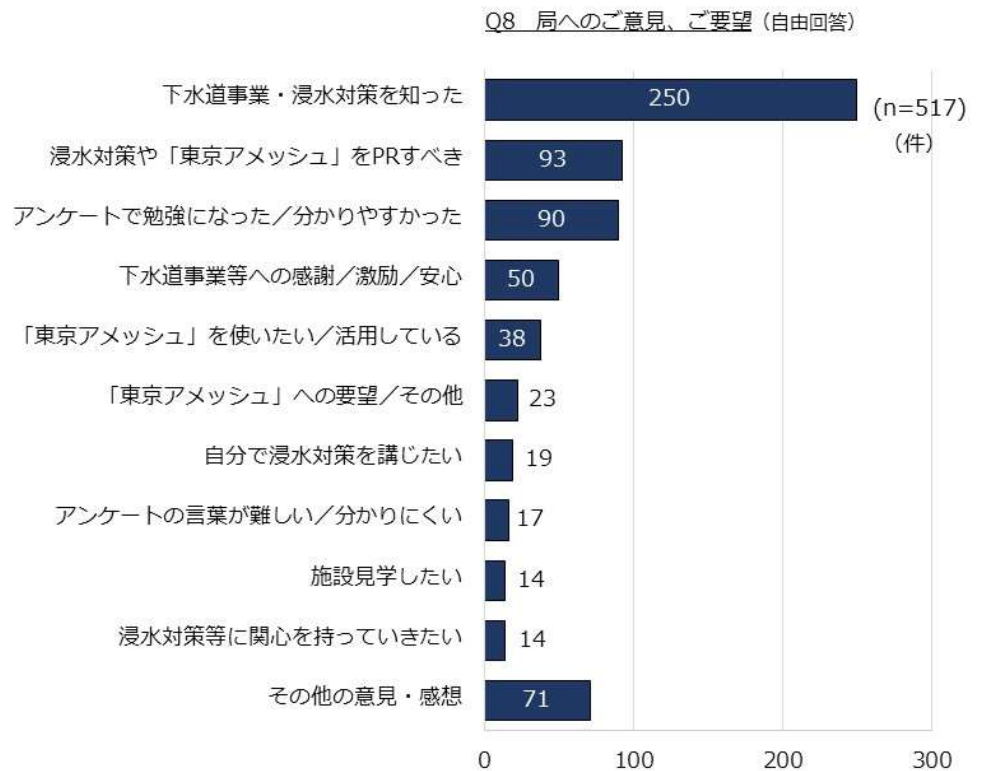
(5) 「東京アメッシュ」を利用しない理由

3 (1) の利用経験の設問 (Q6) で「今は利用していない」「利用していない」433 人の利用しない理由は「別の気象情報を使用している」が最も多く、次いで「利用方法がわからない」人は約 2 割だった。



4 局へのご意見・ご要望

アンケートやモニター活動で「下水道事業・浸水対策を知った」等の意見が最も多く、次いで「浸水対策や「東京アメッシュ」を PR すべき」が多かった。



II 回答者の属性

第2回モニターアンケートは、令和3年7月30日（金）から8月13日（金）まで実施した。その結果、697名の方から回答があった。（回答率70.1%）

1 回答者数（性別、年代、地域、職業）

性別	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
男性	308	428	72.0%	44.2%
女性	389	566	68.7%	55.8%
合計	697	994	70.1%	100.0%

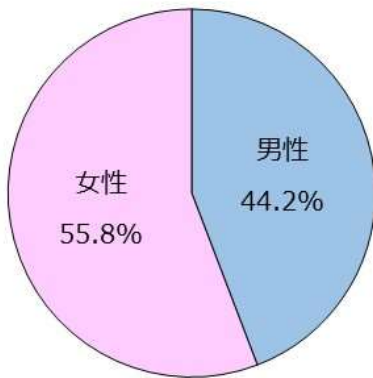
年代	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
20歳代	37	60	61.7%	5.3%
30歳代	149	216	69.0%	21.4%
40歳代	164	239	68.6%	23.5%
50歳代	162	216	75.0%	23.2%
60歳代	119	165	72.1%	17.1%
70歳以上	66	98	67.3%	9.5%
合計	697	994	70.1%	100.0%

地域	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
23区部	354	504	70.2%	50.8%
多摩地区	343	490	70.0%	49.2%
合計	697	994	70.1%	100.0%

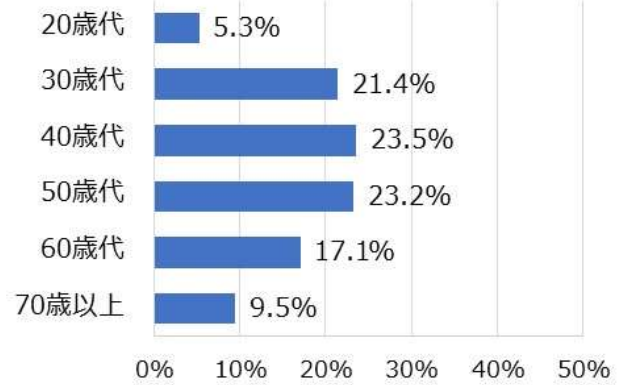
職業	回答者数	モニター数	回答率	回答者中の割合
会社員	278	394	70.6%	39.9%
自営業・家族従業	43	63	68.3%	6.2%
学生	12	19	63.2%	1.7%
学校教員・塾講師	5	8	62.5%	0.7%
パート・アルバイト	110	167	65.9%	15.8%
専業主婦	132	182	72.5%	18.9%
無職	95	129	73.6%	13.6%
その他	22	32	68.8%	3.2%
合計	697	994	70.1%	100.0%

2 回答者属性別グラフ

回答者 性別 (n=697)



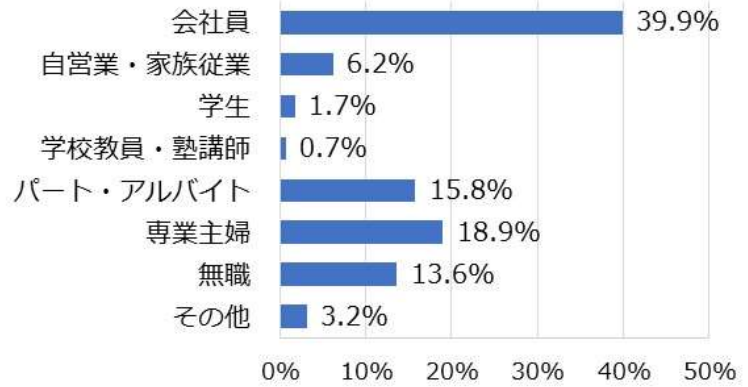
回答者 年代 (n=697)



回答者 地域 (n=697)



回答者 職業 (n=697)



III集計結果

1 東京都下水道局が行っている浸水対策の取組

(1) 浸水対策の取組の内容や意味の認知度

-
- ◆ 下水道の浸水対策への認知度について、「内容や意味を十分に知っている」、「内容や意味を少し知っている」と「言葉を聞いたことがある程度」を合わせた『認知度あり』では、「(9)浸水予想区域図の公表」が81.5%と最も高く、次いで「(3)雨水調整池の整備」が81.4%となった。一方、「(6)枝線の増径」や「(7)増補管やバイパス管の整備」の認知度は低かった。
 - ◆ 『認知度あり』を男女別にみると、全体的に、男性の認知度が高い傾向があった。
 - ◆ 『認知度あり』を年代別にみると、どの対策も年代の上昇とともに認知度が上がる傾向が見られた。
 - ◆ 『認知度あり』を地区別にみると、「(8)雨水浸透ますの設置」以外は全て23区部の方が多摩地区に比べ高い結果だった。
-

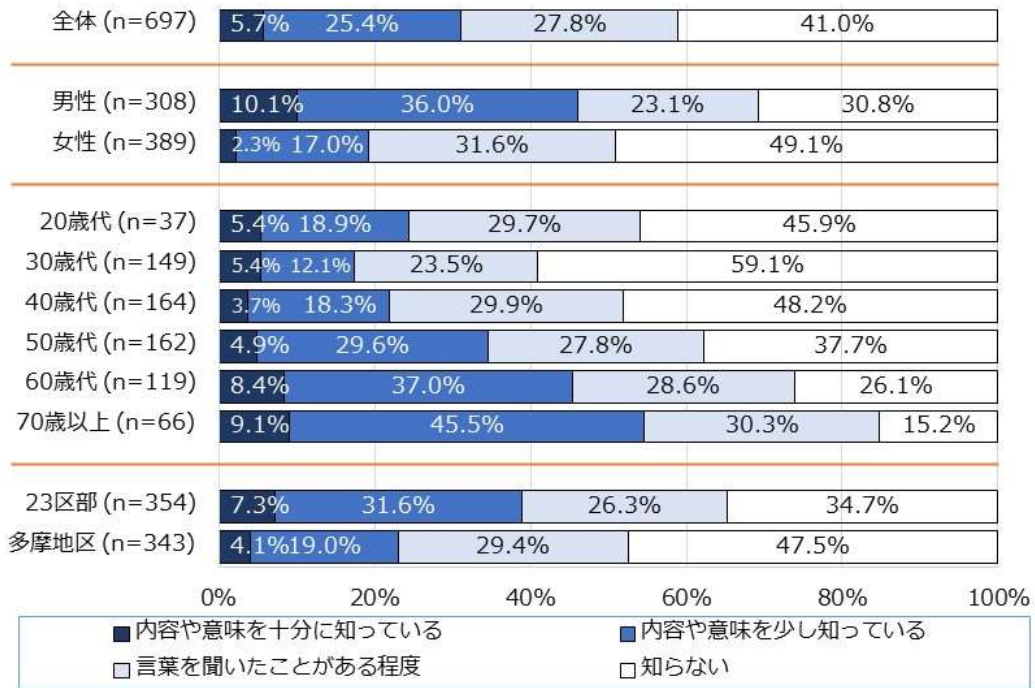
『浸水対策』について

近年、都市化が進んだことによる雨水流入量の増加や頻発する局地的な大雨などによって、浸水被害が発生しています。東京都下水道局では、大雨から街を守るため、下水道管や貯留施設の整備など、下水道による浸水対策を進めています。

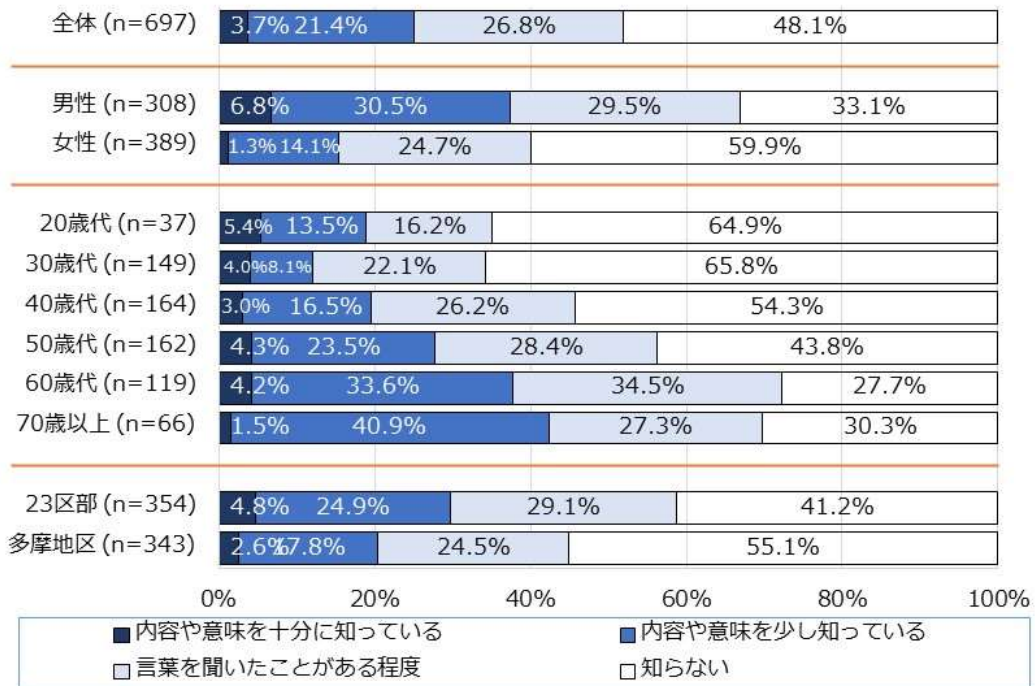
Q1 東京都下水道局が行っている浸水対策の取組について伺います。

最初に、以下のそれぞれの取組について、内容や意味をご存知かどうかお聞きします。(1)から(10)について、選択肢から該当するものを一つだけお選びください。(単一回答)

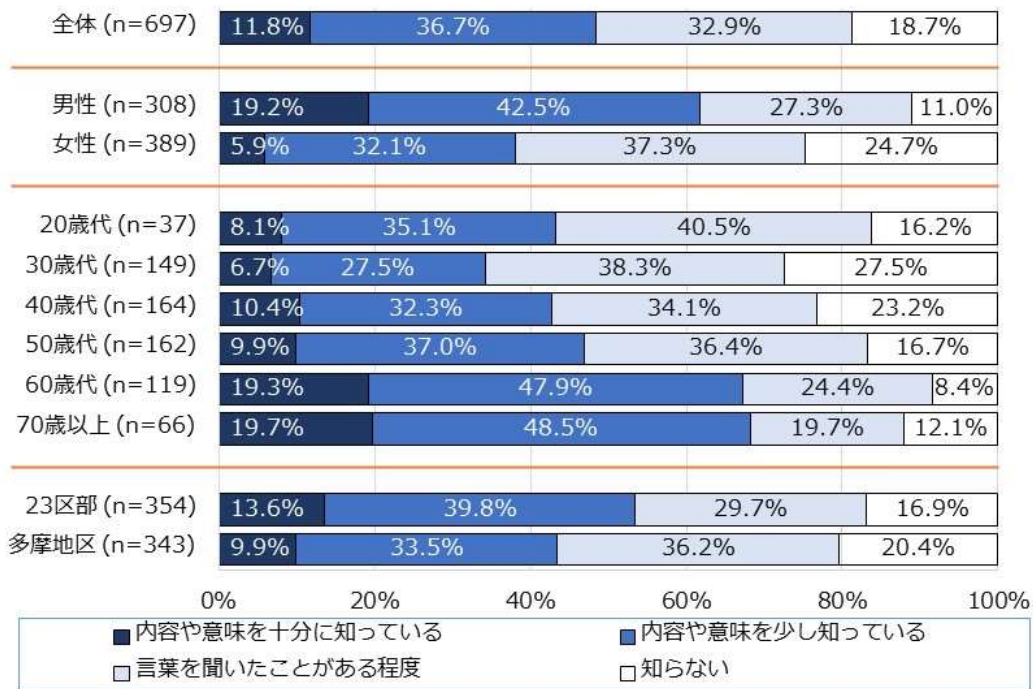
Q1 - (1) 「浸水対策幹線の整備」の内容や意味の認知度



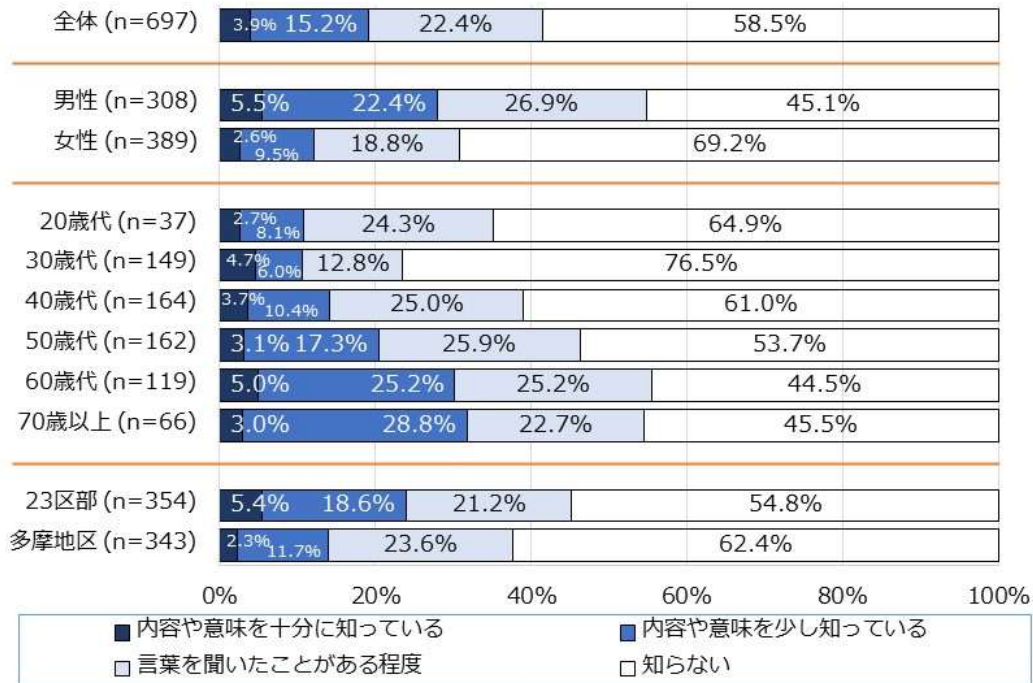
Q1 - (2) 「ポンプ所の能力増強」の内容や意味の認知度



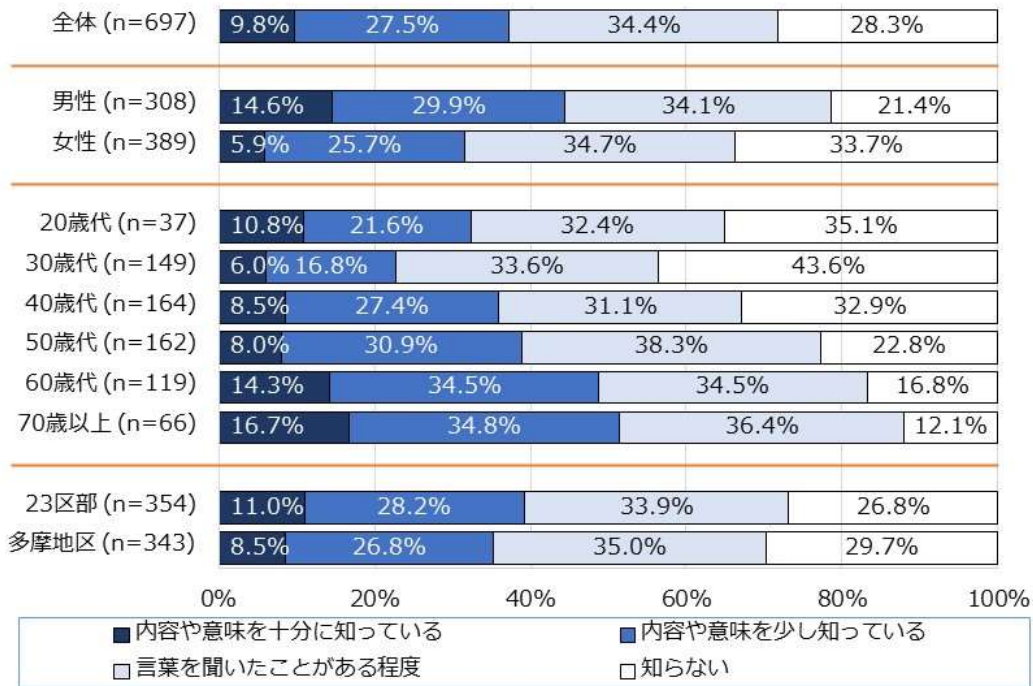
Q1 - (3) 「雨水調整池の整備」の内容や意味の認知度



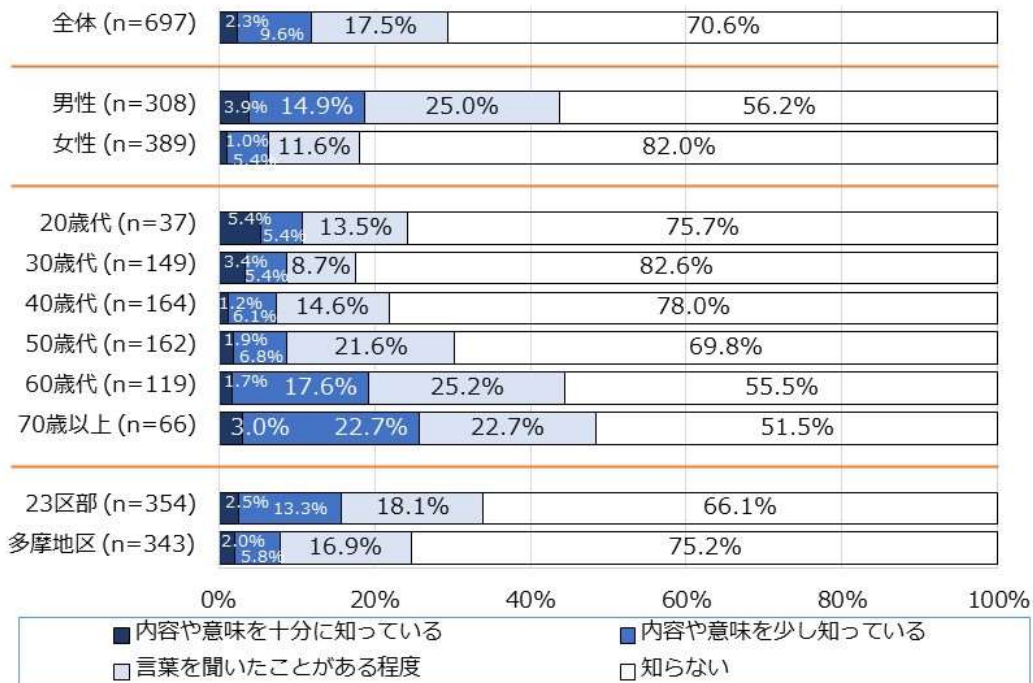
Q1 - (4) 「暫定貯留管の整備」の内容や意味の認知度



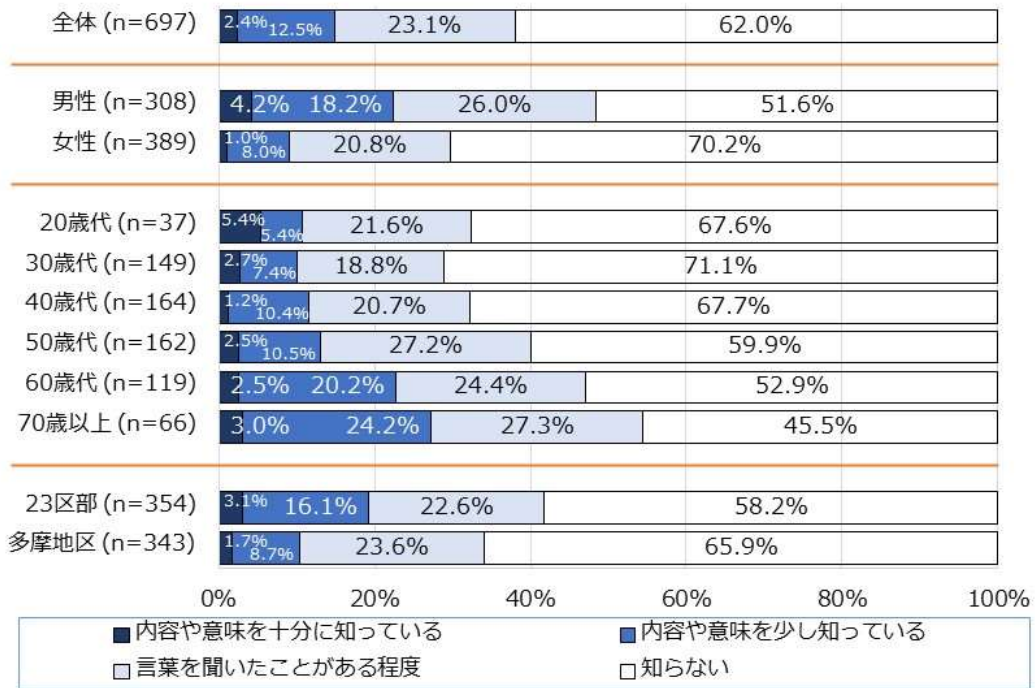
Q1 - (5) 「大規模地下街対策」の内容や意味の認知度



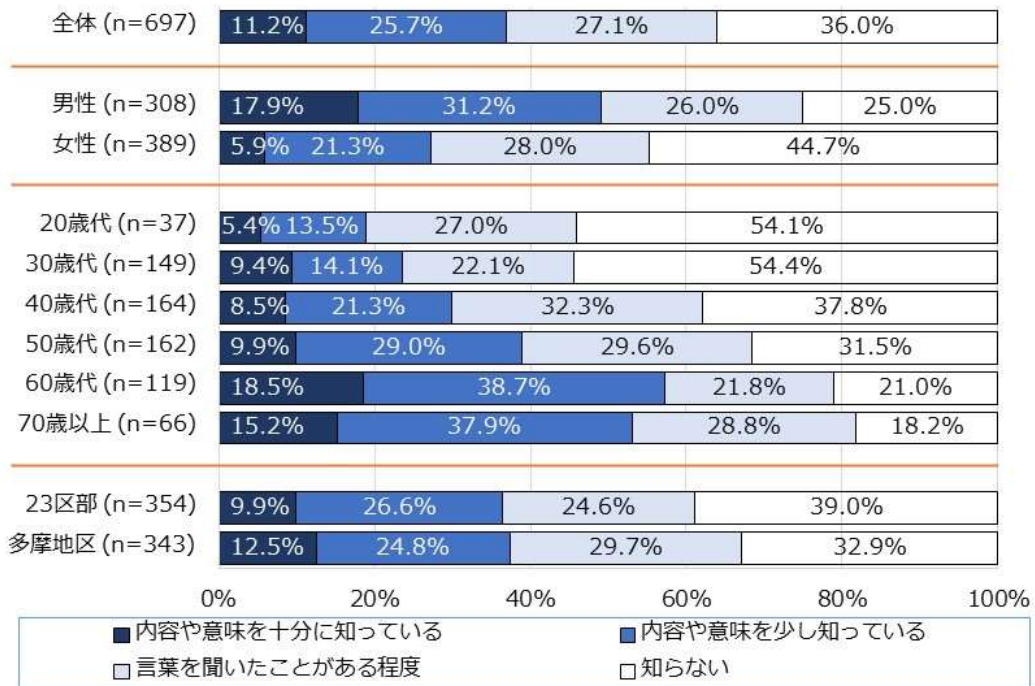
Q1 - (6) 「枝線の増径」の内容や意味の認知度



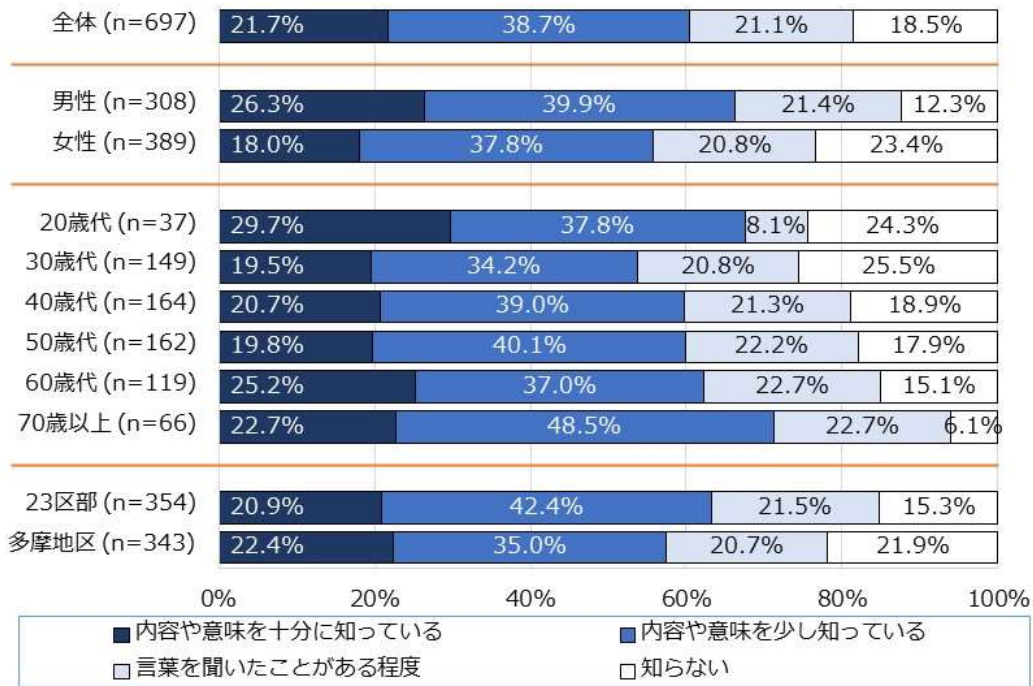
Q1 - (7) 「増補管やバイパス管の整備」の内容や意味の認知度



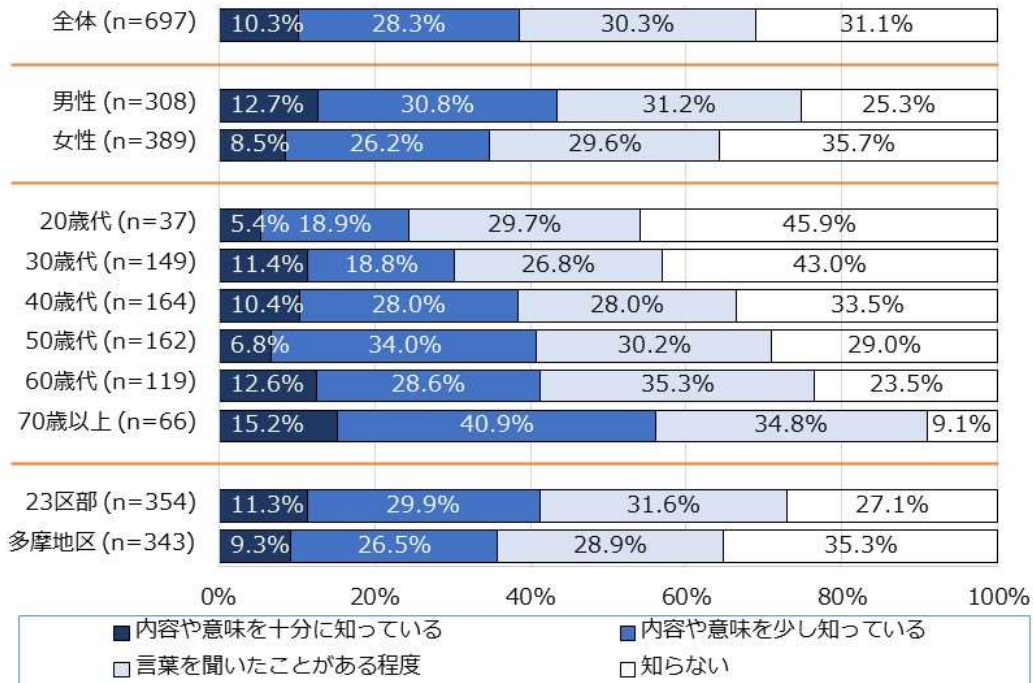
Q1 - (8) 「雨水浸透ますの設置」の内容や意味の認知度



Q1 - (9) 「浸水予想区域図の公表」の内容や意味の認知度



Q1 - (10) 「地下室・半地下室における注意喚起」の内容や意味の認知度



(2) 浸水対策の取組への理解

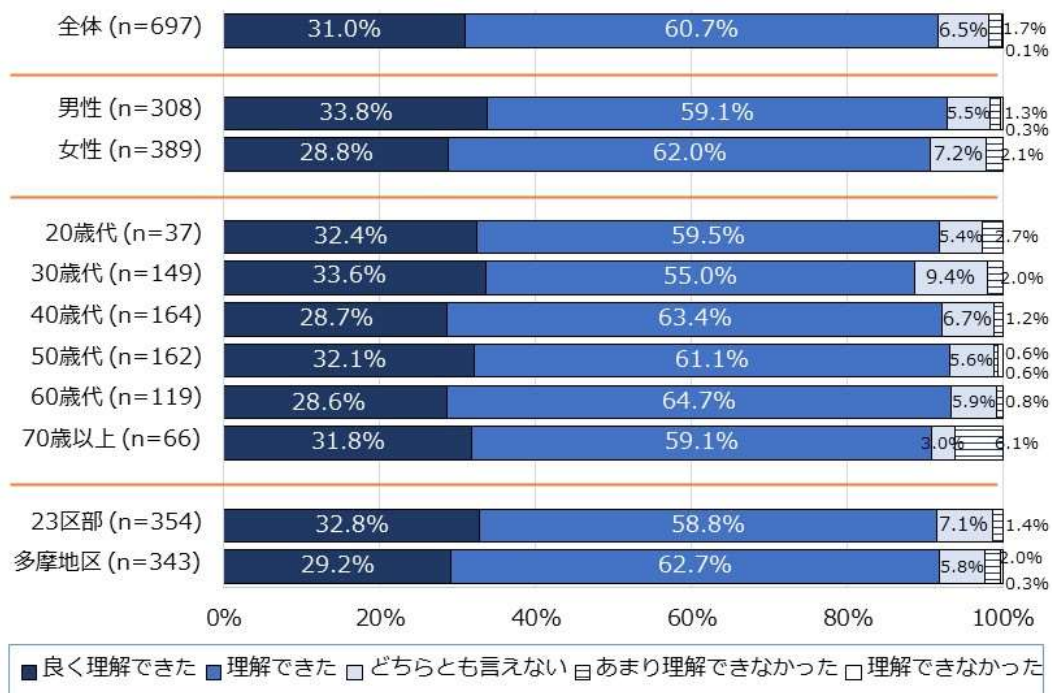
- ◆ 浸水対策のイメージと具体策提示したのち、各取組への理解を尋ねたところ、いずれの取組も約9割が『理解できた（よく理解できた、理解できた）』と回答した。
- ◆ 男女別では『理解できた』傾向に大きな違いはなかった。
- ◆ 各年代で最も理解度が高いものは、20歳代が「(10) 地下室・半地下室における注意喚起 (94.6%)」、30歳代が「(3) 雨水調整池の整備 (90.6%)」、40歳代が「(2) ポンプ所の能力増強 (95.7%)」、50歳代が「(1) 浸水対策幹線の整備 (93.2%)」、60歳代と70歳以上では「(2) ポンプ所の能力増強」だった。
- ◆ 地区別では傾向に大きな違いはなかった。

Q2 浸水対策のイメージと具体策をご覧ください。

以下に示す各取組への理解について、以下の選択肢から、該当するものを一つだけお選びください。(単一回答)

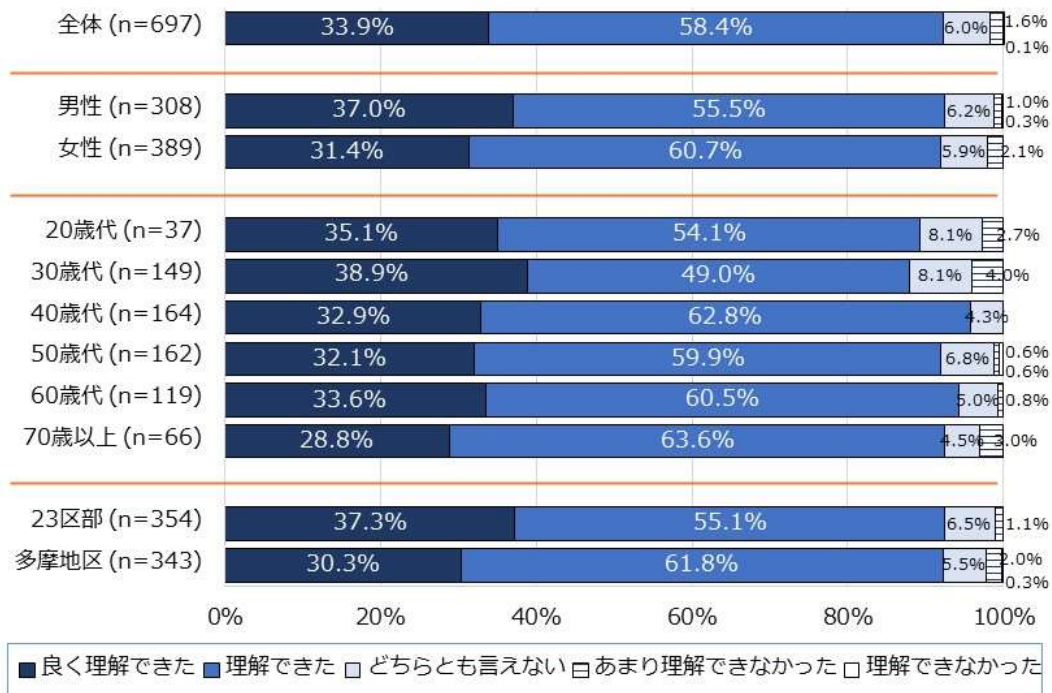
Q2-(1) 「浸水対策幹線の整備」への理解

新たな幹線を整備して、雨水排除能力を高めます。



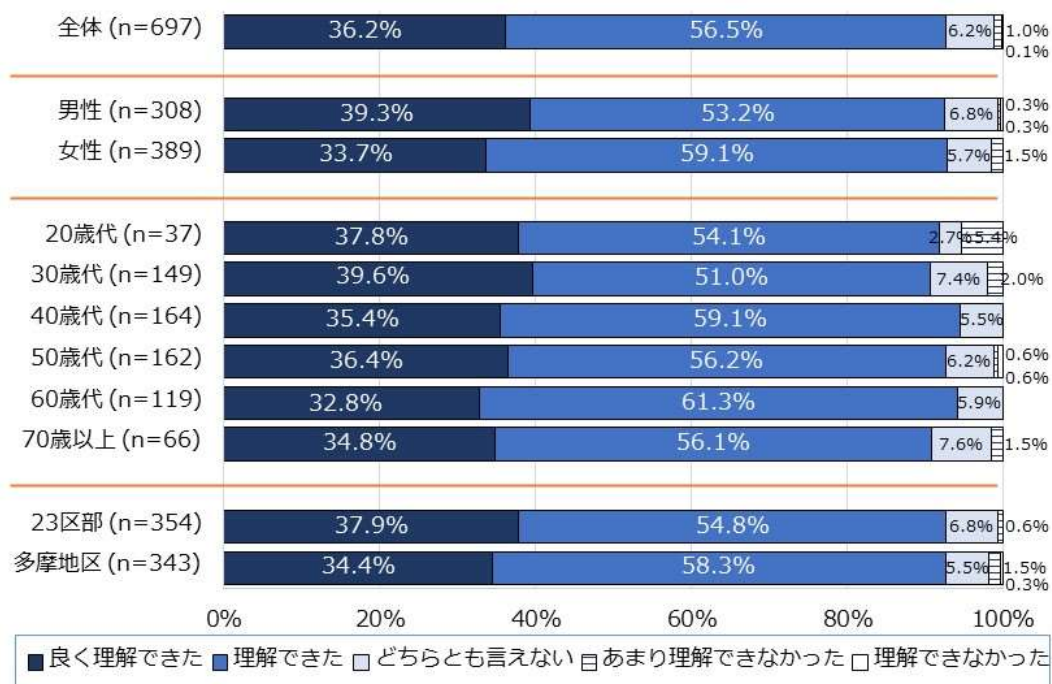
Q 2 - (2) 「ポンプ所の能力増強」 への理解

下水道管に流入した雨水をまとめて汲み上げて、河川に放流するポンプ施設を整備します。



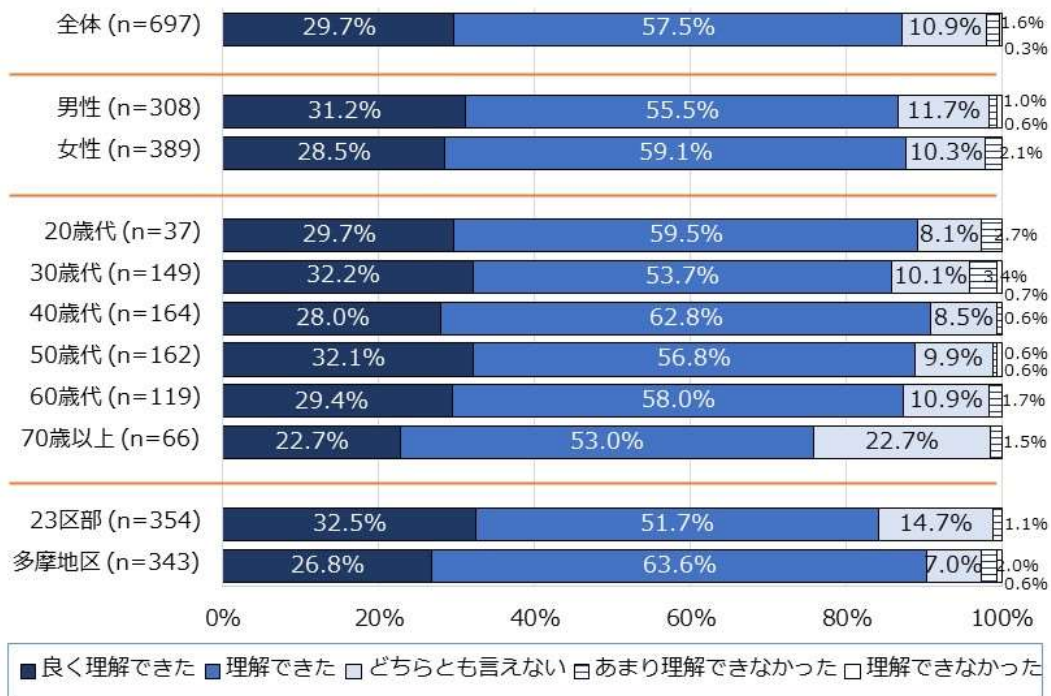
Q 2 - (3) 「雨水調整池の整備」 への理解

浸水被害の危険性が高い地域において、下水道管の流下能力を超える雨水を貯留する施設を整備します。



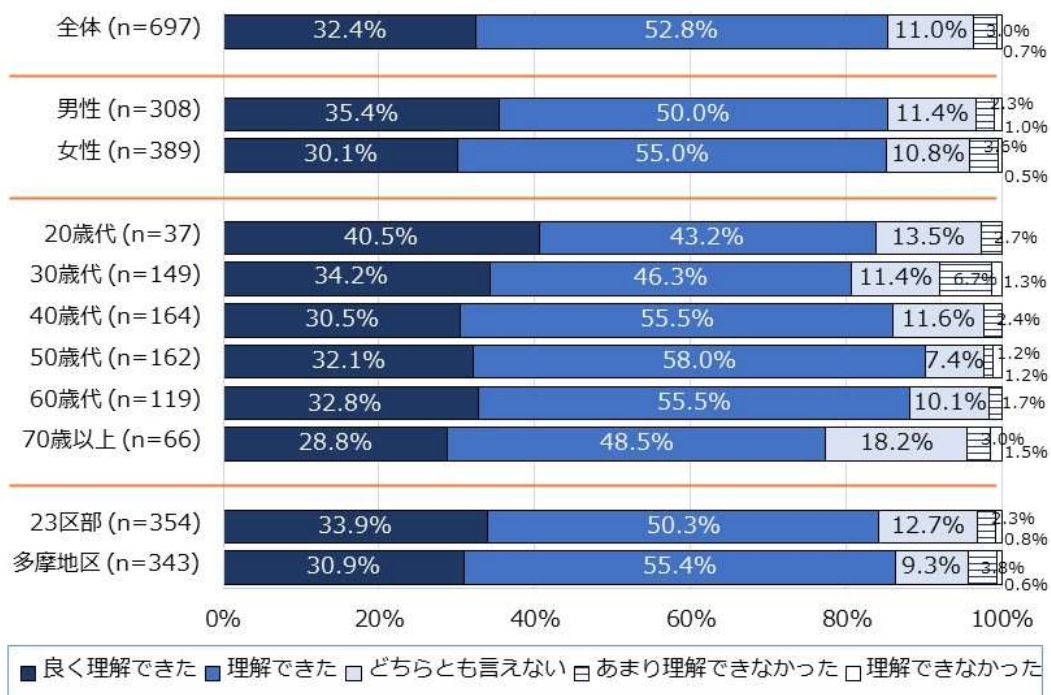
Q2 - (4) 「暫定貯留管の整備」への理解

下水道管の能力を超える雨水を暫定的に貯留する施設を整備します。



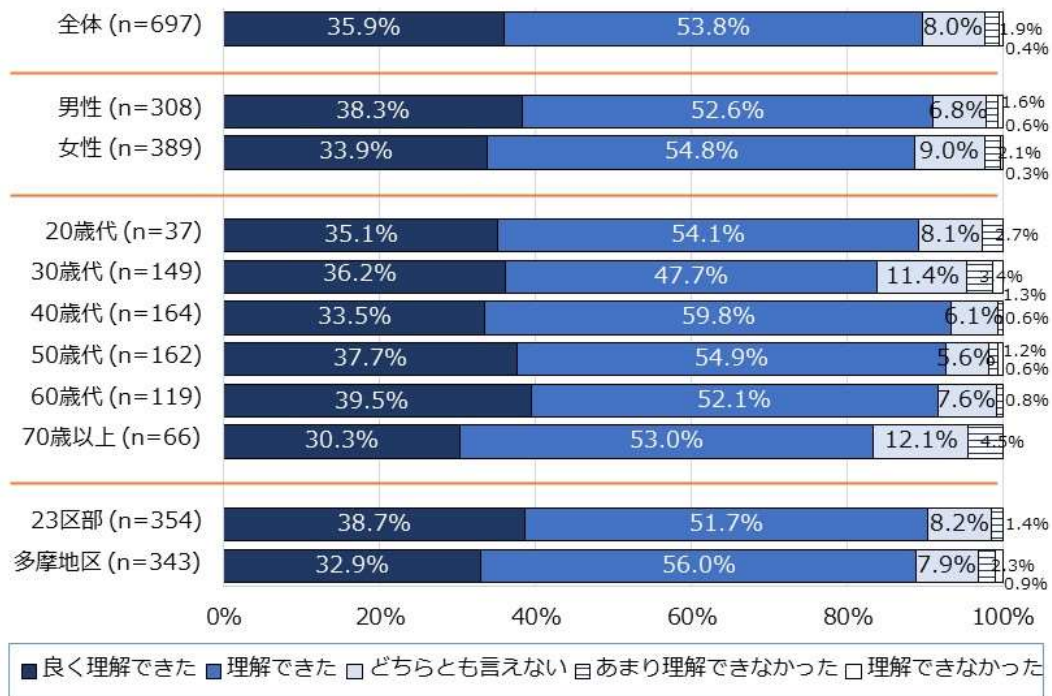
Q2 - (5) 「大規模地下街対策」への理解

1時間 75 ミリ降雨時に、地下街への雨水侵入を防止するための施設を整備します。



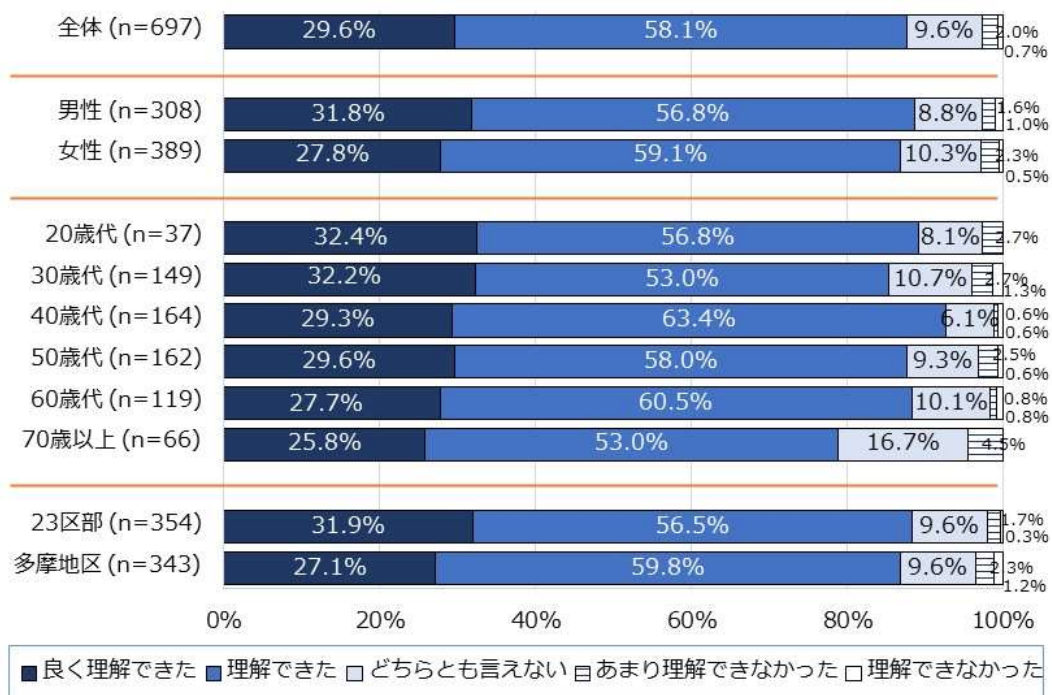
Q2 - (6) 「枝線の増径」への理解

古くなった下水道管を新しいものに入れ替える際に、下水道管を大きくして流下能力を高めます。



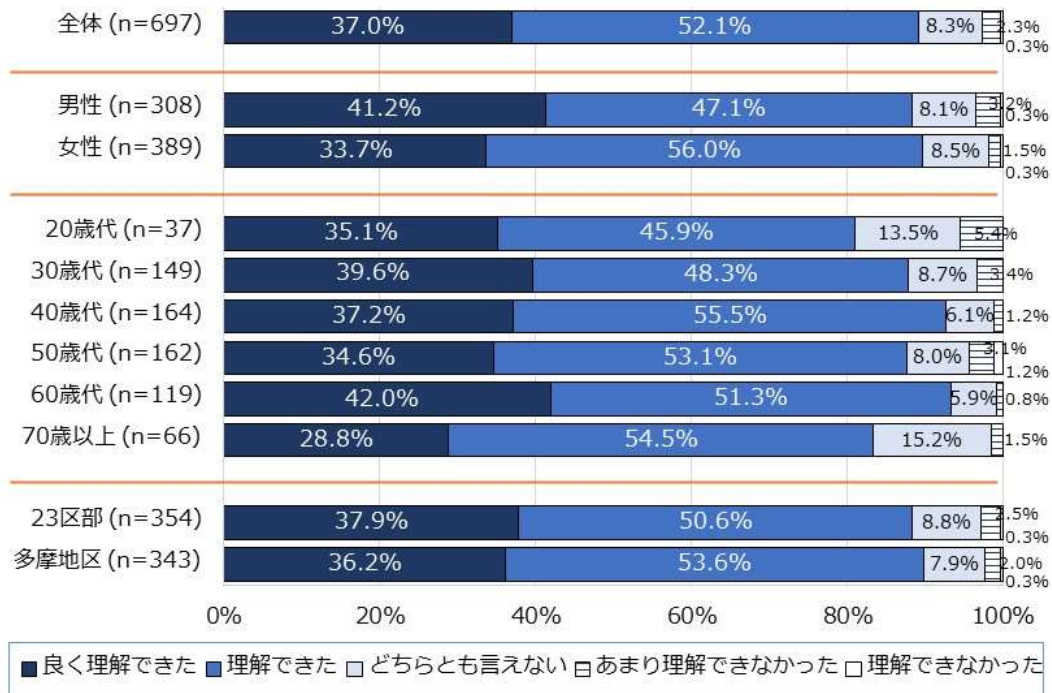
Q2 - (7) 「増補管やバイパス管の整備」への理解

下水道管を追加（増補管）、水の流れを変えたりして（バイパス管）、浸水被害が起こりやすい箇所における下水道管の流下能力を高めます。



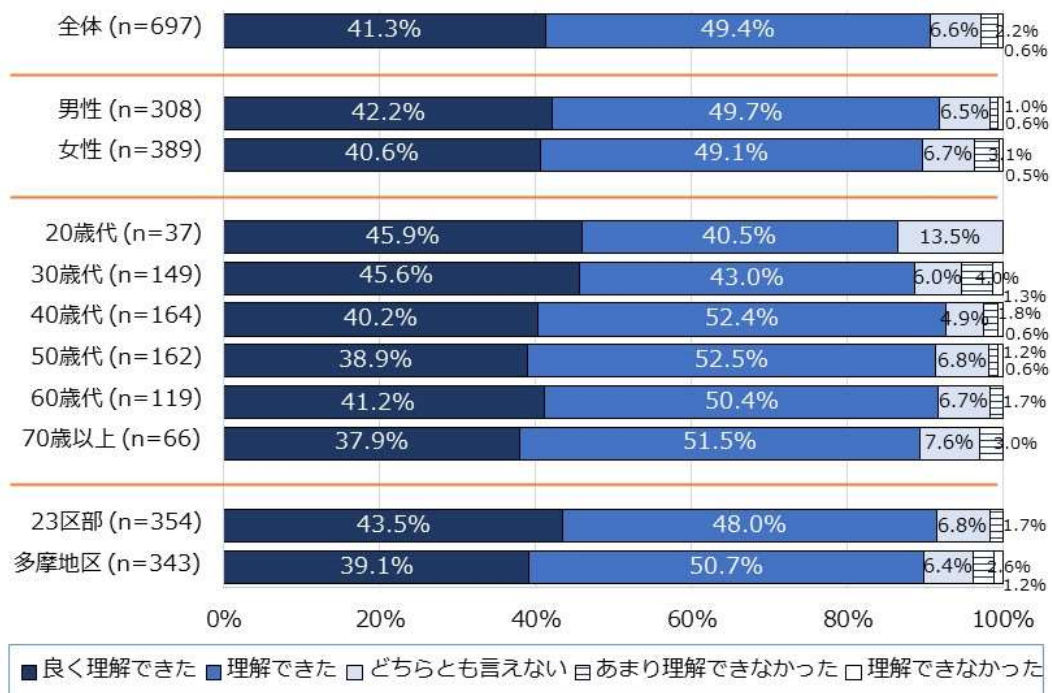
Q 2 - (8) 「雨水浸透ますの設置」 への理解

学校、公園、庁舎などの公共施設や戸建て住宅や集合住宅・事業所等の宅地において、降った雨を地下に浸透させ、下水道管への雨水の流入を抑制する施設の設置を促進します。
 なお、宅地内への浸透ます等の設置には、助成制度を設けている特別区もあります。



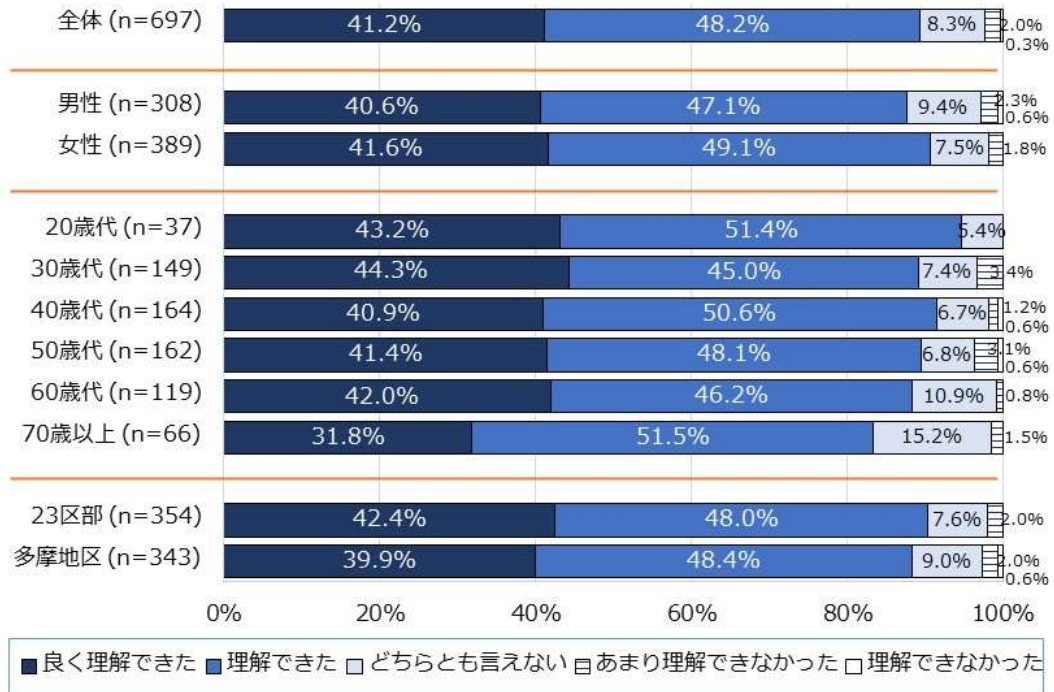
Q 2 - (9) 「浸水予想区域図の公表」 への理解

河川周辺の浸水の被害予想区域についてホームページ等で周知しています。
<https://www.gesui.metro.tokyo.lg.jp/living/a3/inundation/>



Q2-(10)「地下室・半地下室における注意喚起」への理解

豪雨時に下水道管から室内への逆流を防止するため、排水ポンプの設置や止水板、土のう等の準備といったご家庭における浸水予防策をお願いしています。



(3) 浸水対策の取組の重要度

- ◆ 各取組をどのくらい重要と考えるかでは、「とても重要である」と「重要である」を合わせた『重要である』は「(9)浸水予想区域図の公表」が最も高く、次いで「(3)雨水調整池の整備」となった。
- ◆ 男女別では、女性のほうが『重要である』との評価がやや高い傾向にあった。
- ◆ 年代別では、いずれの年代もほとんどの施策で9割を超える高い評価だった。
- ◆ 地区別でも傾向に大きな違いはなかった。

Q3 浸水対策として以下の取組を推進することで、都市機能を確保し、安全・安心な暮らしを実現します。各取組について、あなたはどのくらい重要だと思いますか。(単一回答)

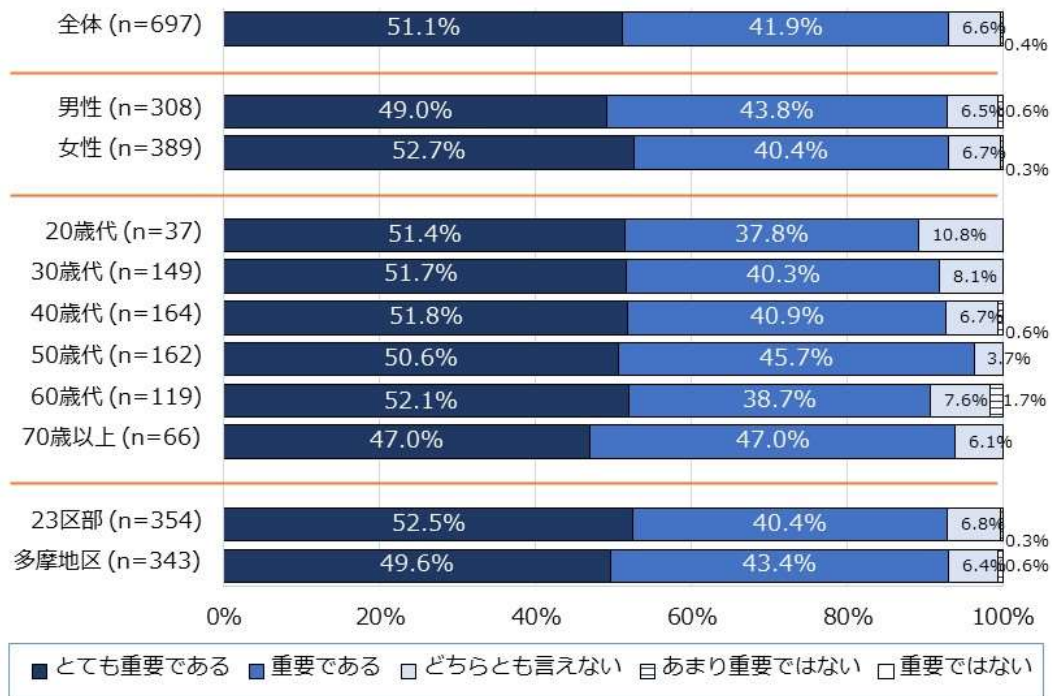
Q3-(1)「浸水対策幹線の整備」の重要度

新たな幹線を整備して、雨水排除能力を高めます。



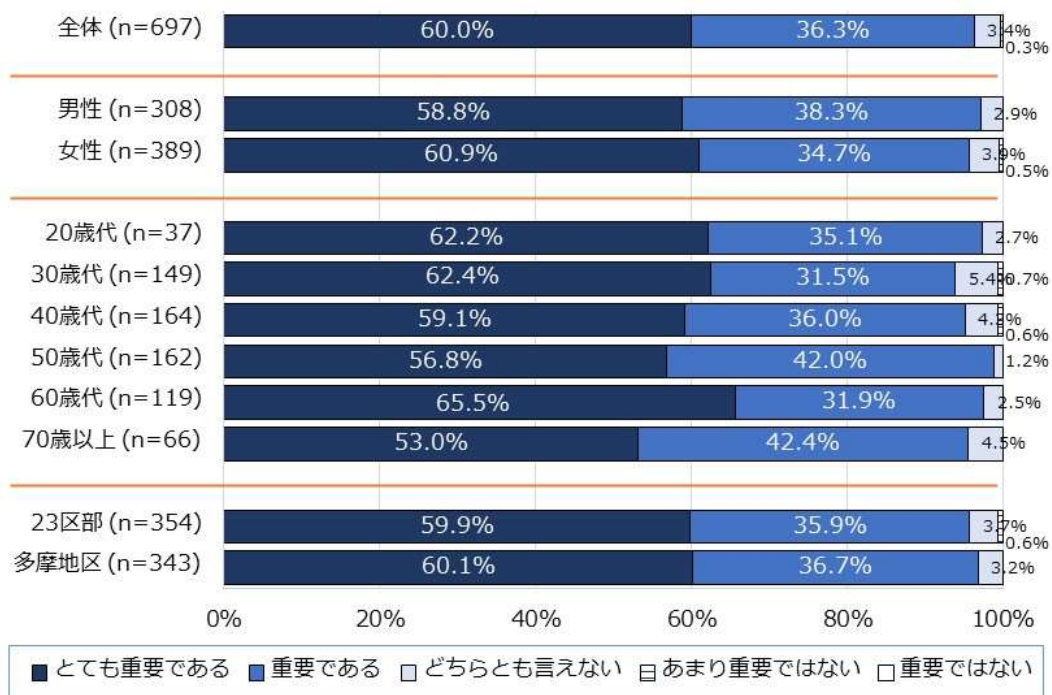
Q3 - (2) 「ポンプ所の能力増強」の重要度

下水道管に流入した雨水をまとめて汲み上げて、河川に放流するポンプ施設を整備します。



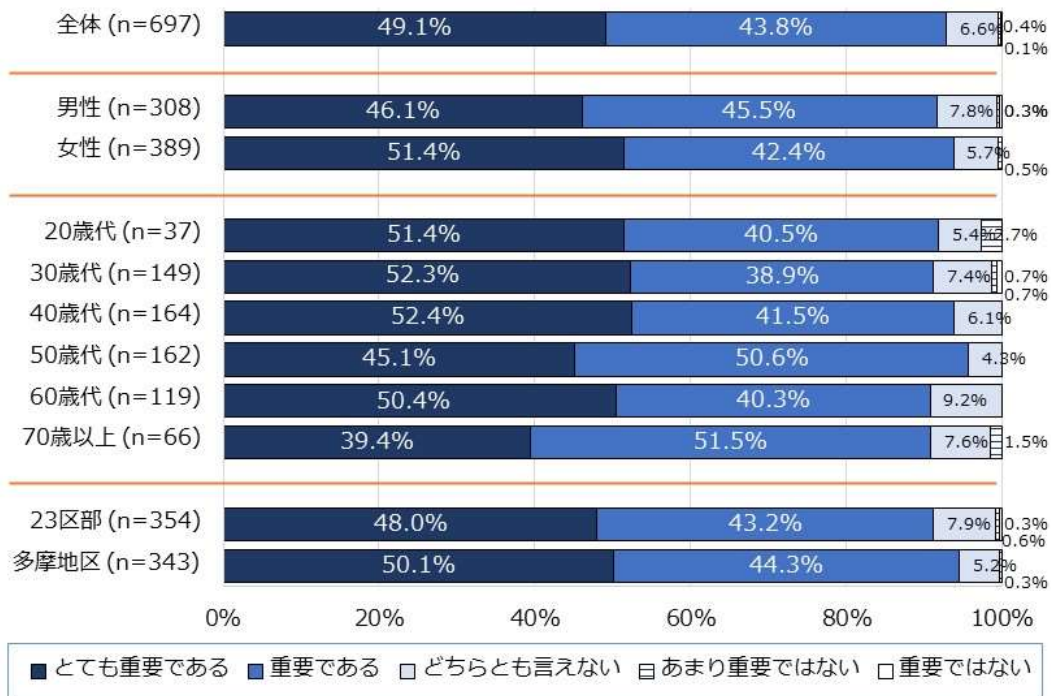
Q3 - (3) 「雨水調整池の整備」の重要度

浸水被害の危険性が高い地域において、下水道管の流下能力を超える雨水を貯留する施設を整備します。



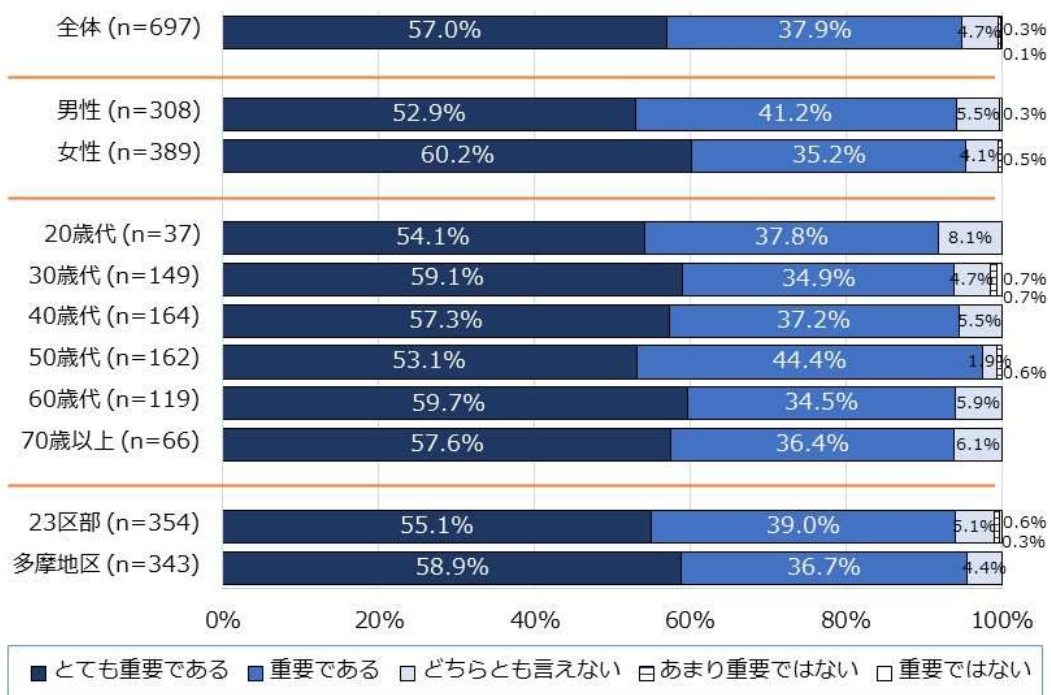
Q3-(4)「暫定貯留管の整備」の重要度

下水道管の能力を超える雨水を暫定的に貯留する施設を整備します。



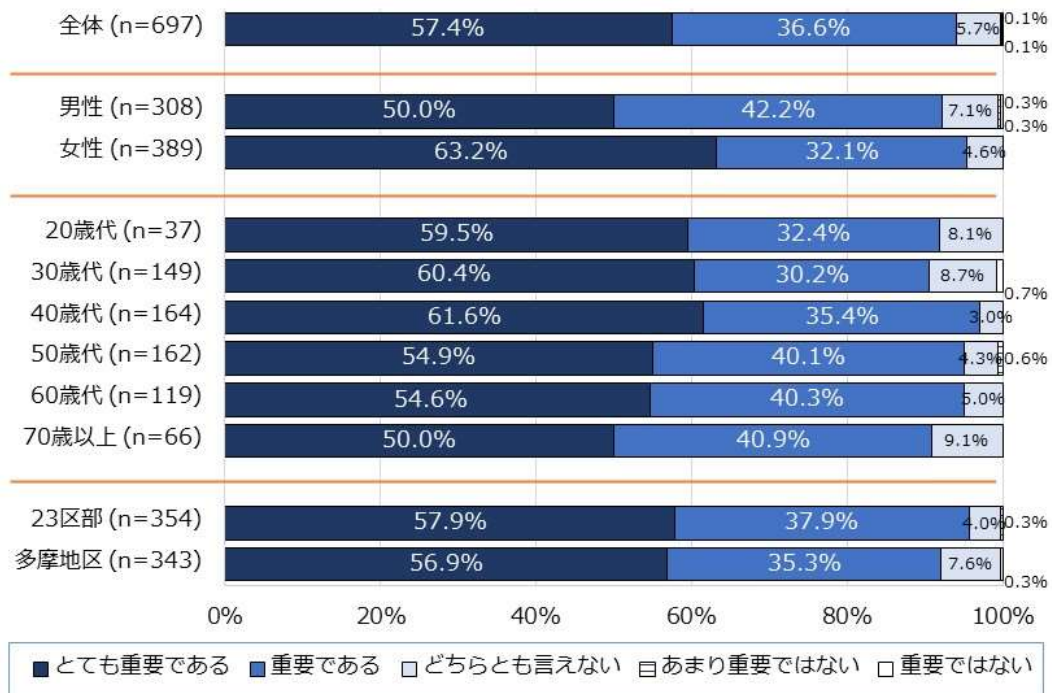
Q3-(5)「大規模地下街対策」の重要度

1時間75ミリ降雨時に、地下街への雨水侵入を防止するための施設を整備します。



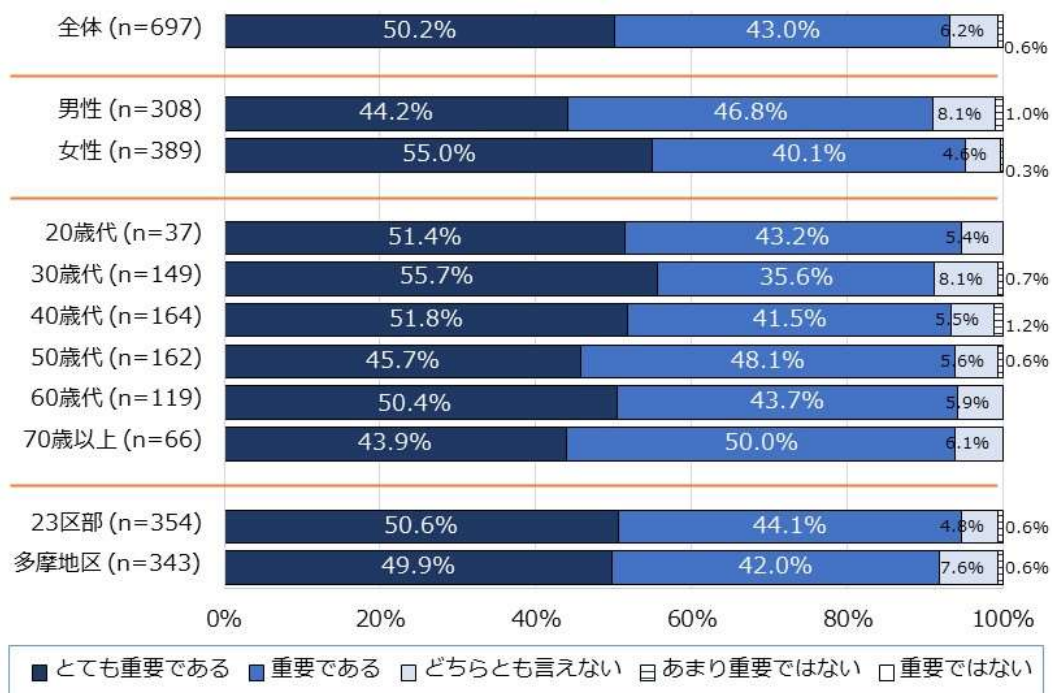
Q3-(6)「枝線の増径」の重要度

古くなった下水道管を新しいものに入れ替える際に、下水道管を大きくして流下能力を高めます。



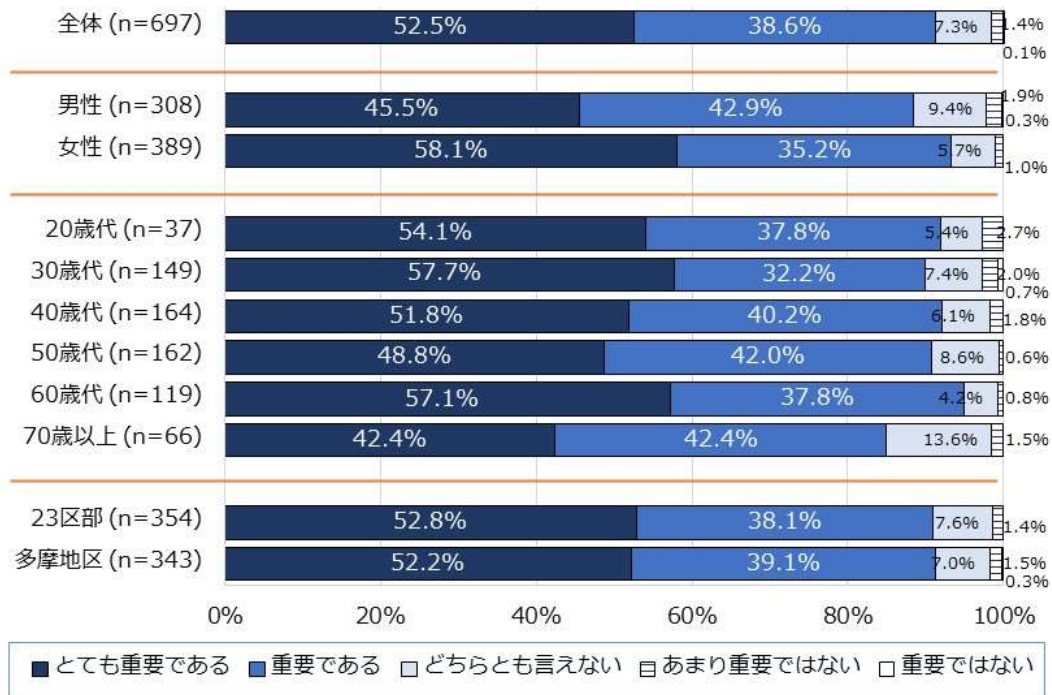
Q3-(7)「増補管やバイパス管の整備」の重要度

下水道管を追加（増補管）、水の流れを変えたりして（バイパス管）、浸水被害が起こりやすい箇所における下水道管の流下能力を高めます。



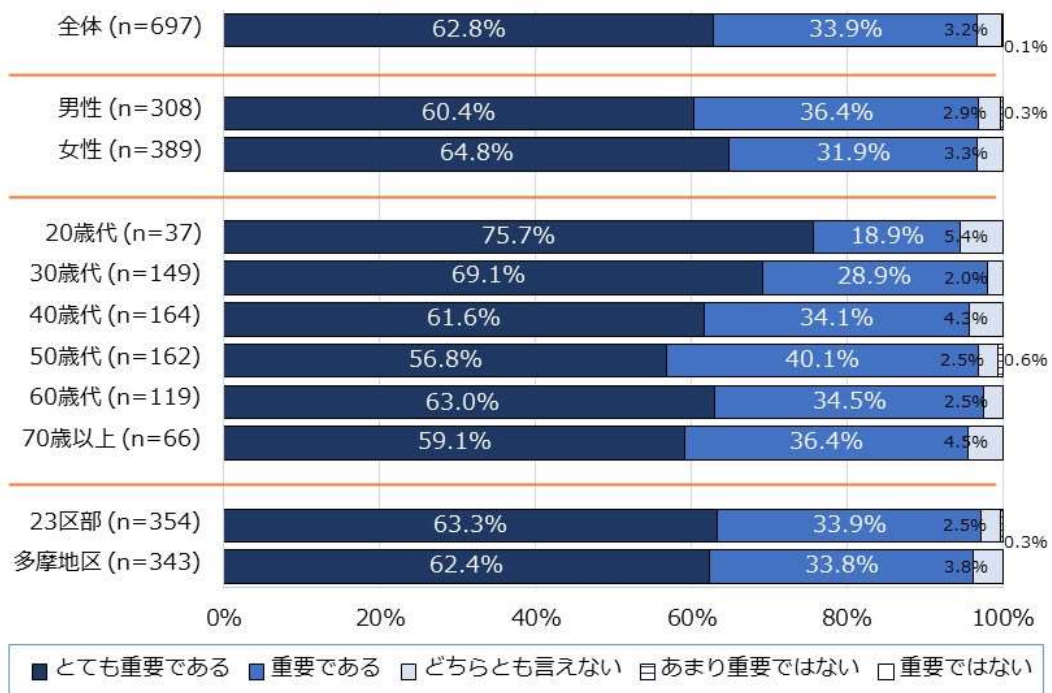
Q3 - (8) 「雨水浸透ますの設置」の重要度

学校、公園、庁舎などの公共施設や戸建て住宅や集合住宅・事業所等の宅地において、降った雨を地下に浸透させ、下水道管への雨水の流入を抑制する施設の設置を促進します。
 なお、宅地内への浸透ます等の設置には、助成制度を設けている特別区もあります。



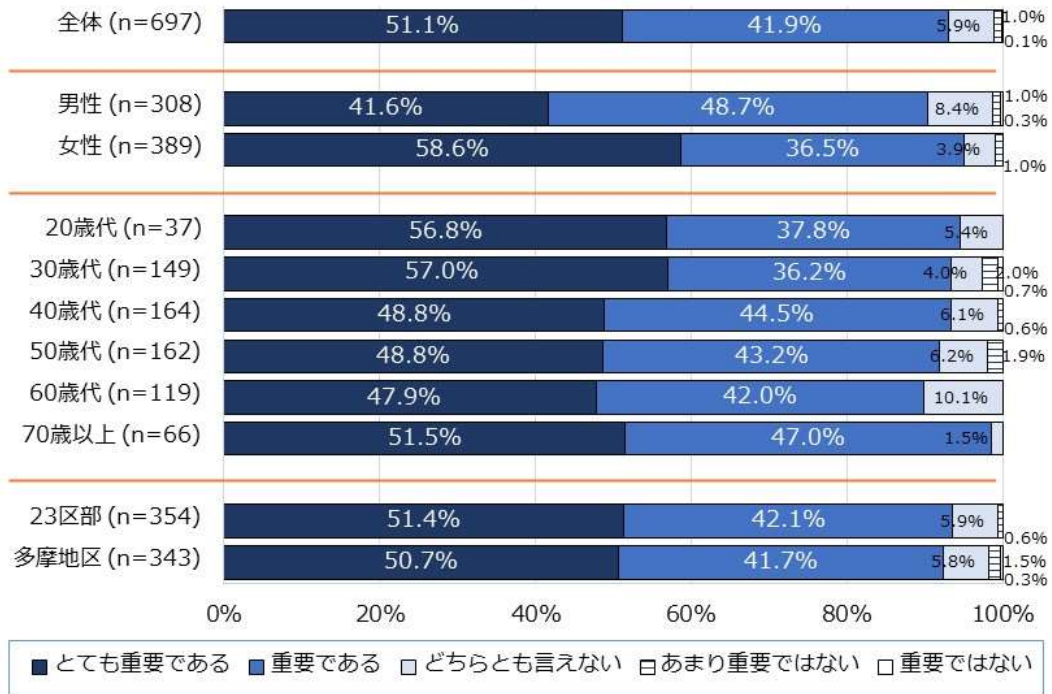
Q3 - (9) 「浸水予想区域図の公表」の重要度

河川周辺の浸水の被害予想区域についてホームページ等で周知しています。
<https://www.gesui.metro.tokyo.lg.jp/living/a3/inundation/>



Q3-(10)「地下室・半地下室における注意喚起」の重要度

豪雨時に下水道管から室内への逆流を防止するため、排水ポンプの設置や止水板、土のう等の準備といったご家庭における浸水予防策をお願いしています。



2 家庭での浸水対策の取組

(1) 家庭での浸水対策実施の有無

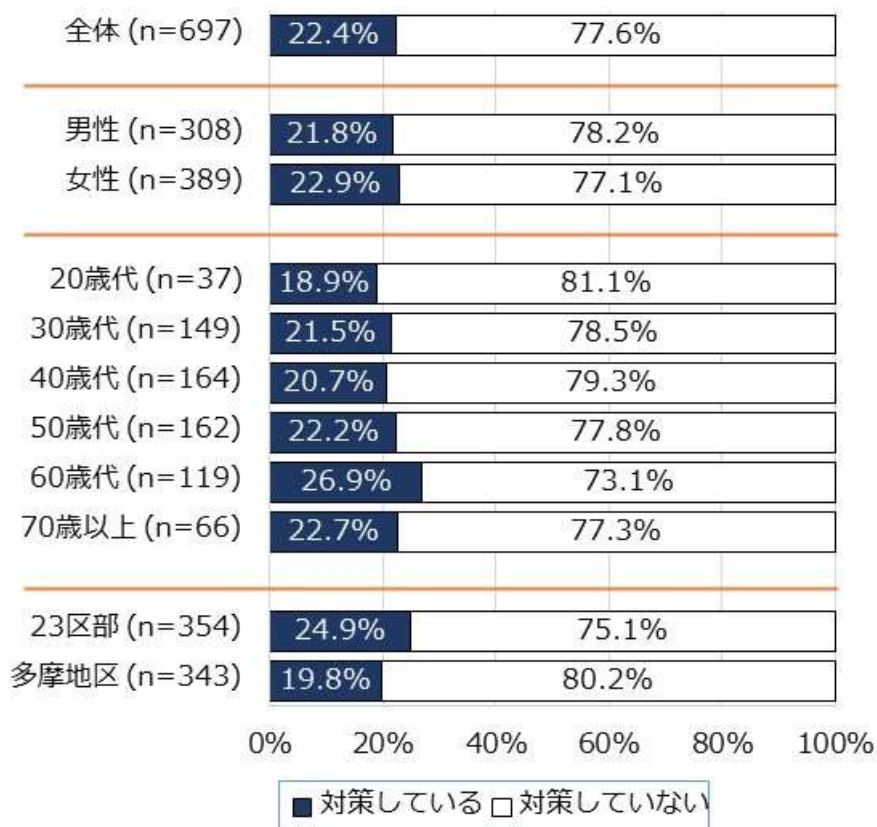
- ◆ 家庭で浸水対策を実施しているのは、回答者の約2割だった。
- ◆ 男女別での違いはなかった。
- ◆ 年代別で『対策している』との回答は、60歳代が26.9%と最も高く、次いで70歳代が22.7%となった。20歳代は18.9%と最も低かった。
- ◆ 地区別にみると、『対策している』は23区部が多摩地区より5.1ポイント高かった。

家庭での浸水への対策について

ここでは、皆さまのお宅での浸水対策について伺います。

下水道局では、毎年6月を「浸水対策強化月間」と定め、都民の皆さまに浸水への備えをお願いしています。（これまでは下水道のことを知ってもらうため、工事現場や施設の見学会を開催していましたが、新型コロナウイルス感染症を防止するため昨年、今年は開催を取りやめています。）

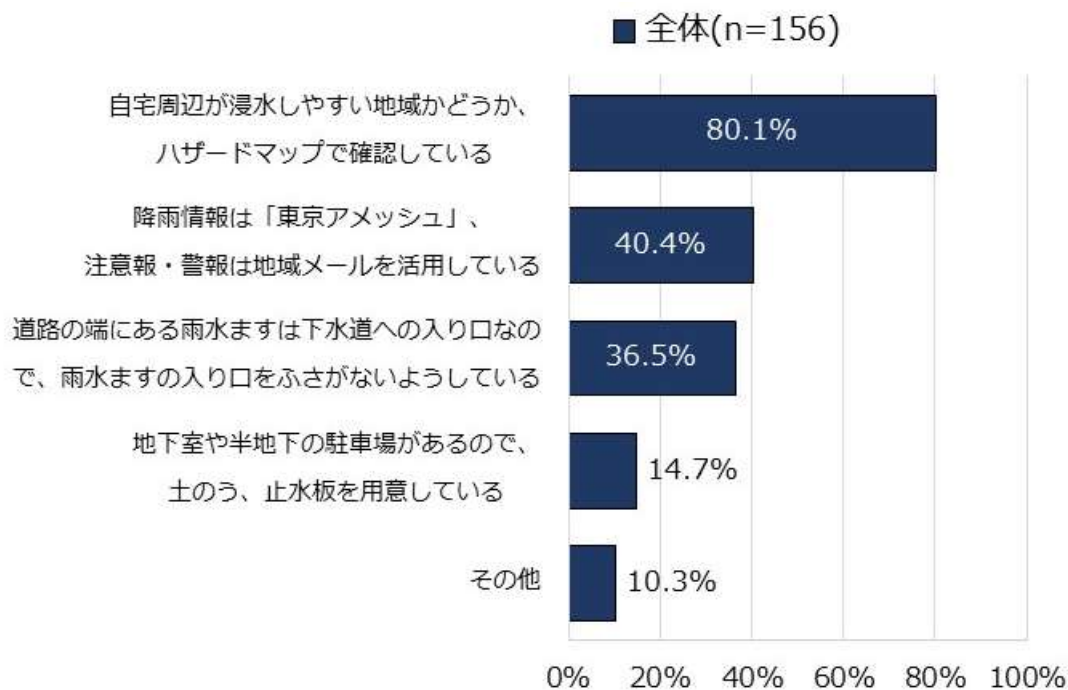
Q4 あなたのお宅では浸水対策を何かやっていますか。（単一回答）



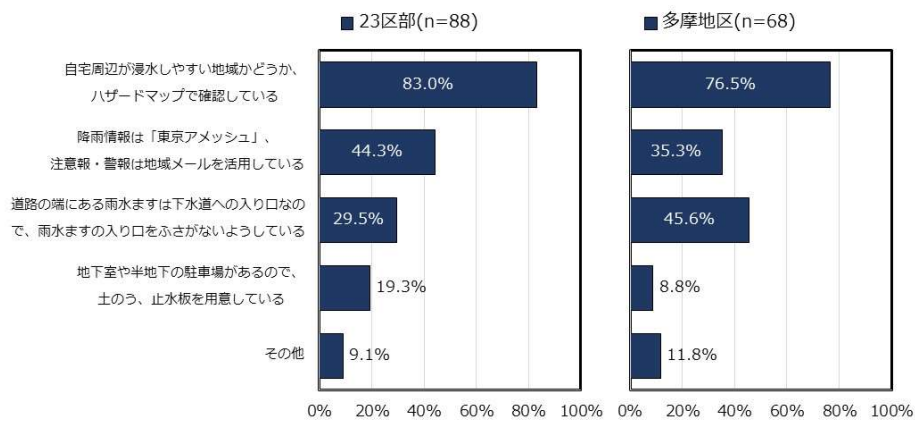
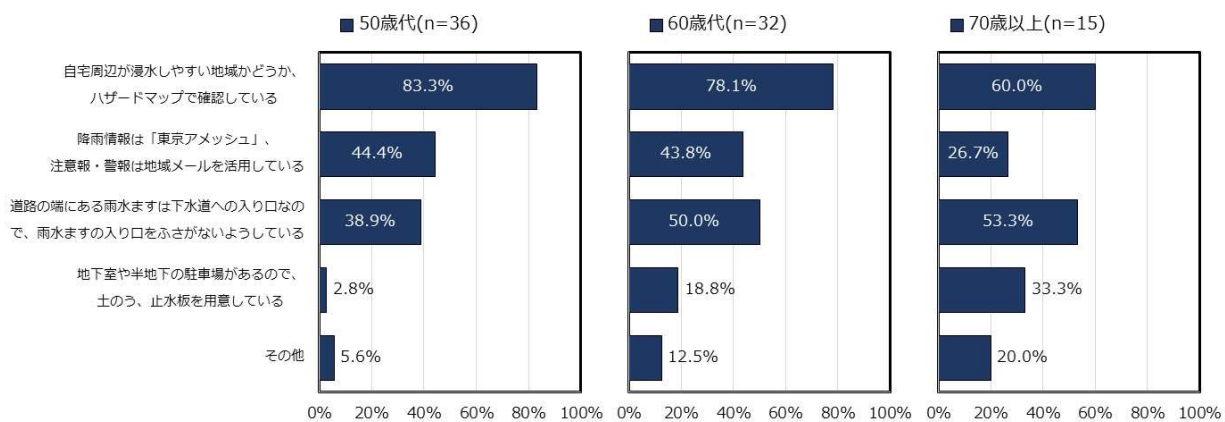
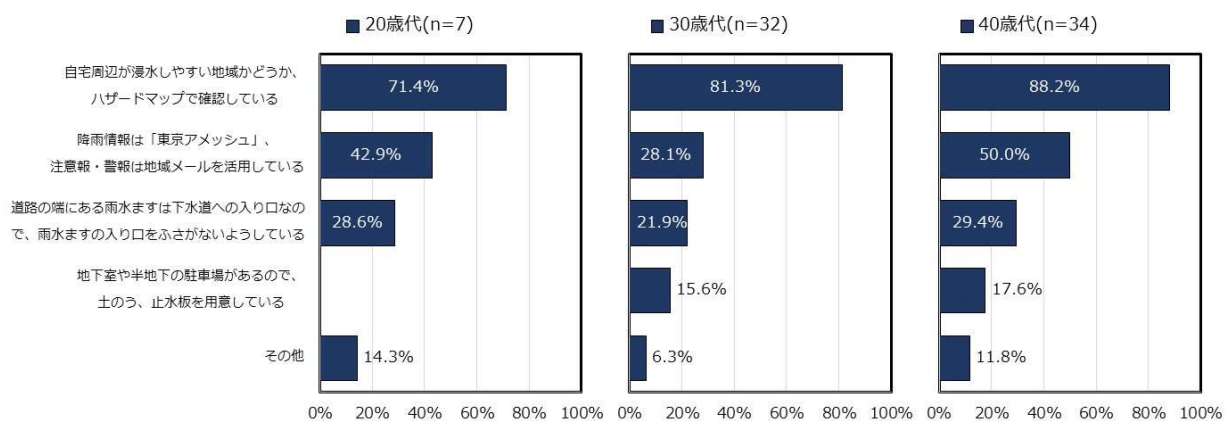
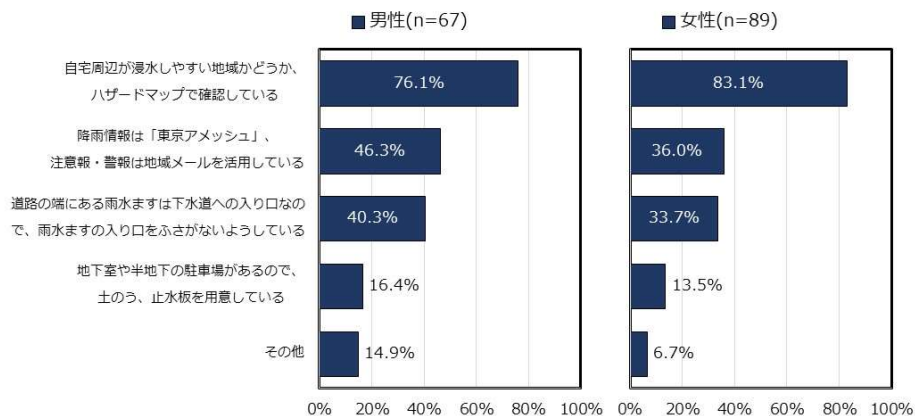
(2) 行っている浸水対策

- ◆ 家庭での浸水対策を行っている回答者（156 人）の対策では、「自宅周辺が浸水しやすい地域かどうか、ハザードマップで確認をしている」が 80.1%と最も高かった。
- ◆ 男女別で回答の傾向に違いはなかった。
- ◆ 年代別では、どの年代も、「ハザードマップで確認をしている」が高いが、60 歳代以上では「東京アメッシュ」や地域メールを活用」よりも「雨水ますの入り口をふさがない」との回答が多かった。
- ◆ 地区別では 23 区部と多摩地区とでは、いずれも「ハザードマップで確認」が最も多かったが、「東京アメッシュ」や地域メールを活用」と「雨水ますの入り口をふさがない」の割合が異なった。

Q4-1 Q4で「対策している」を選択された方に伺います。具体的に行っている対策について、以下の選択肢から、該当するものをいくつでもお選びください。（複数回答）



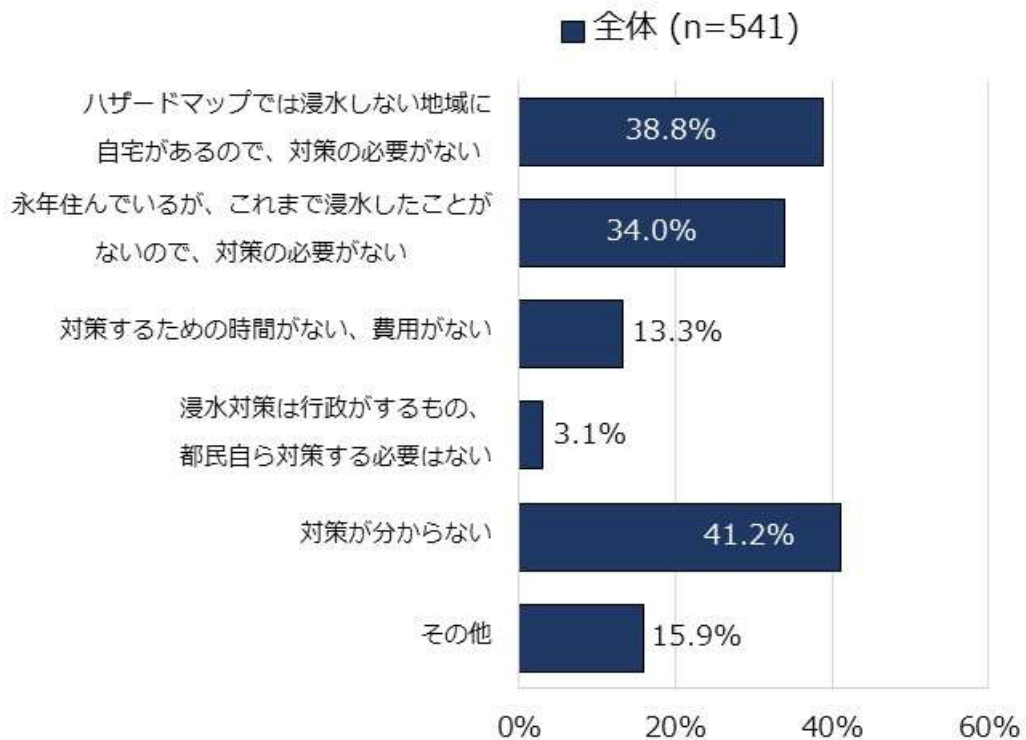
「その他」(16件)の自由記述の一部	
土のうや水のうを用意 (3件)	・家のまえに水が集まりやすいので、土のうを用意している (40歳代女性) ・2Fに住んでいるのでトイレ・風呂等の逆流対策の水のうを用意している。(40歳代男性)
浸水の恐れがない階に居住 (3件)	・マンションの浸水のない階に居住している (40歳代男性)
1階は電化製品を置かない、自動車は移動する (2件)	・1階にパソコンなどの電化製品おかない。(40歳代女性) ・大雨が予想される場合、半地下式駐車場から家用車を安全なスペースに移動している (60歳代男性)
排水ポンプを用意 (1件)	・半地下の一軒家なので排水はポンプを使用しています。(50歳代男性)
自治体のSNSを確認 (1件)	・大雨が降った時に自治体のツイッターで避難場所を調べている。(30歳代女性)
自宅に雨水ますを設置 (4件)	・新築時に雨水浸透枳を設置している。(50歳代女性)



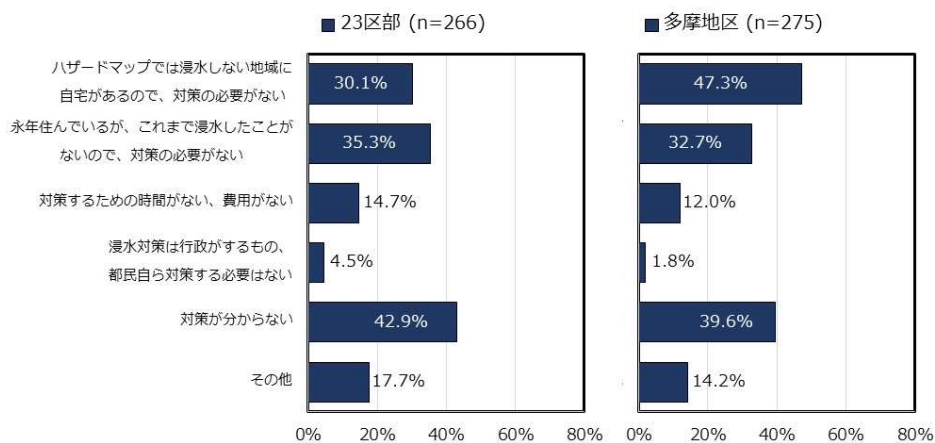
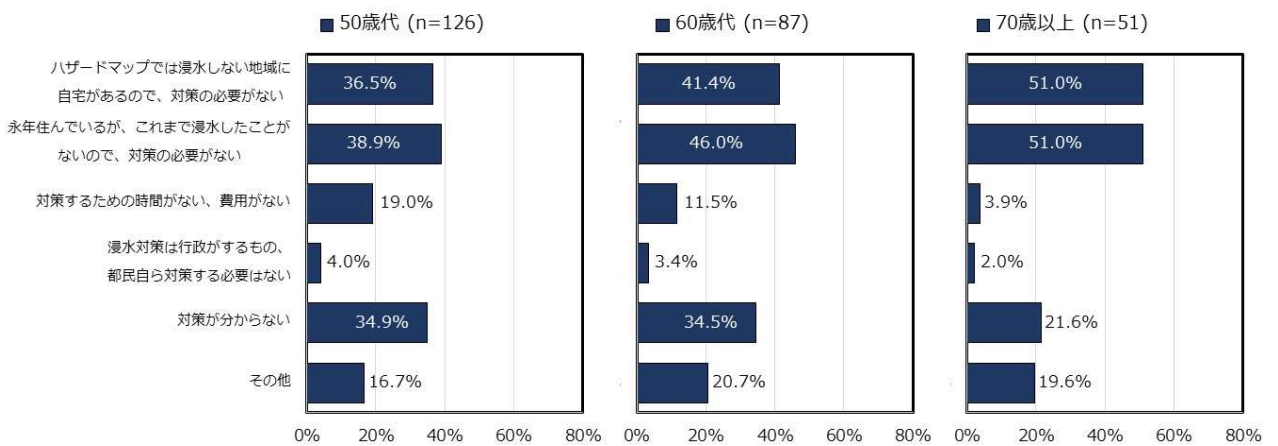
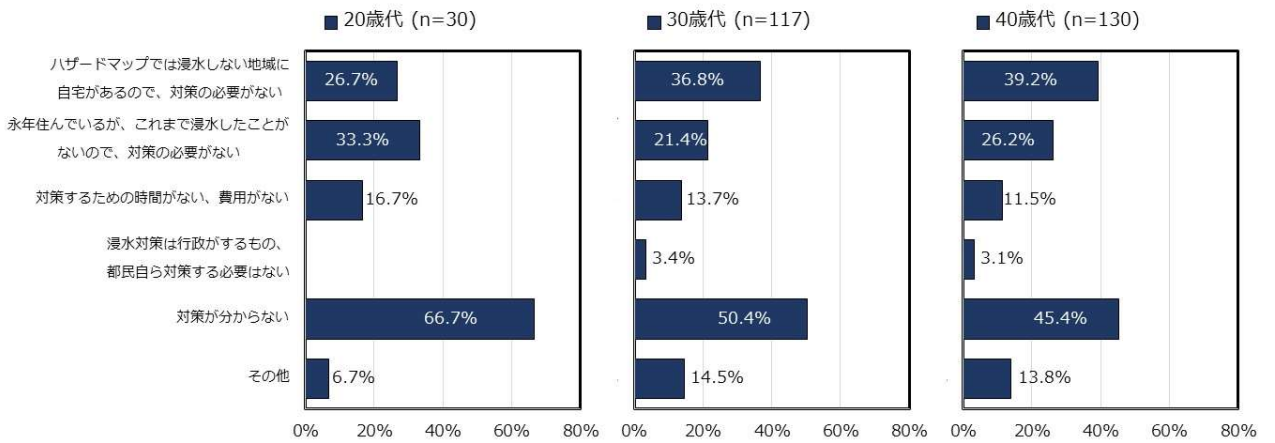
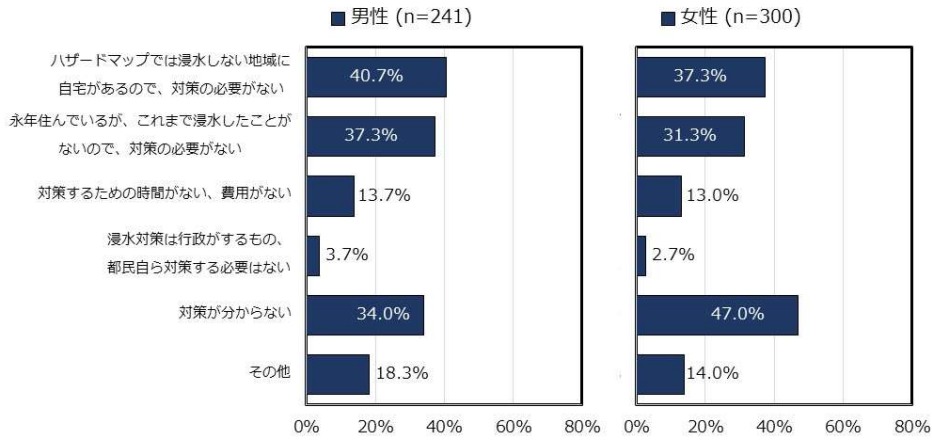
(3) 浸水対策を行わない理由

- ◆ 対策を行っていないとした回答者（541人）の約4割が「対策がわからない」と回答した。次いで「ハザードマップでは浸水しない地域に自宅があるので、対策の必要がない」、「永年住んでいるが、これまで浸水したことがないので、対策の必要がない」がそれぞれ38.8%、34.0%となった。
- ◆ 年代別にみると、「対策がわからない」は、20歳代が66.7%と最も高く、年齢が上がるとその割合は低下した。

Q4-2 Q4で「対策していない」を選択された方に伺います。対策をしていない理由は何ですか。（複数回答）



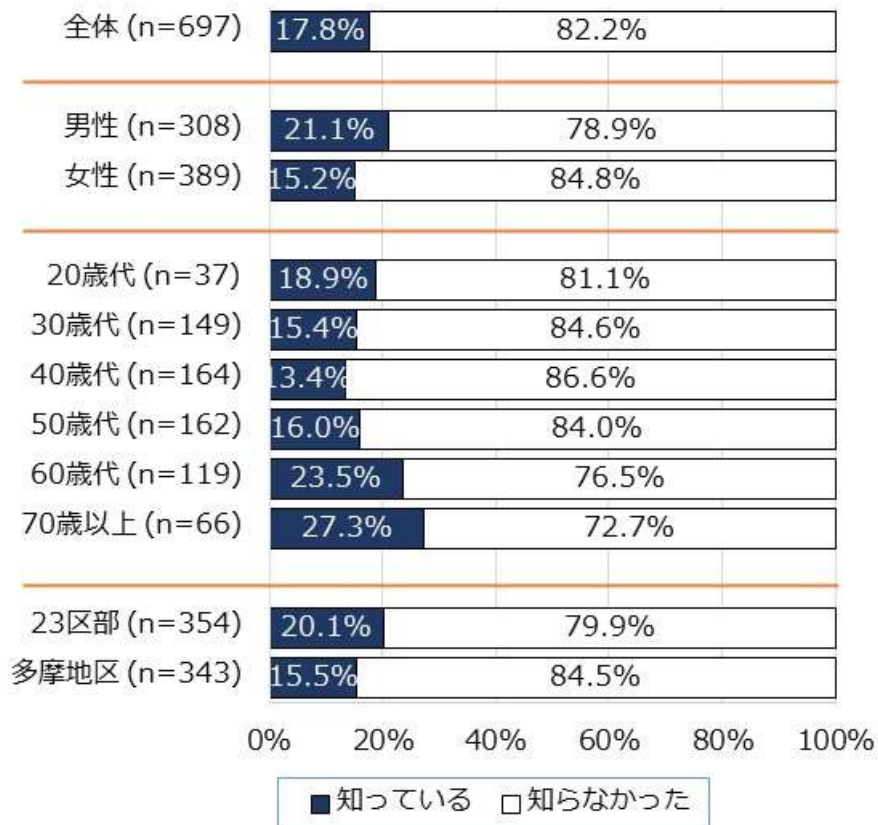
「その他」(86件)の自由記述の一部	
マンション/高層階に住んでいるので浸水しないため(43件)	・高層階に住んでいるので、浸水する恐れを感じない為。(40歳代女性)
集合住宅で管理会社に任せているため(20件)	・マンションの管理組合で対策されていると思って個人では対策していない(50歳代女性)
高台に住んでいるため(13件)	・高台にあり、浸水はまず考えられないため、防水靴を用意する以外は特にしていません。(70歳以上男性)
その他(10件)	・対策の必要がないとまでは思っていないが、ここまで浸水したら対策しても無駄なレベルの大雨だと諦める。(40歳代男性)



(4) 下水道局が紹介する浸水対策の認知度

- ◆ 下水道局が紹介している浸水対策を「知っていた」のは17.8%、「知らなかった」は82.2%だった。
- ◆ 男女別では、対策を知っていたのは男性が21.1%、女性が15.2%で、男性の方が高かった。
- ◆ 年代別では、対策を知っていたとの回答が60歳代と70歳以上で比較的高い傾向だった。
- ◆ 地区別では、対策を知っていたとの回答は23区部が20.1%、多摩地区が15.5%で、23区部の方が高かった。

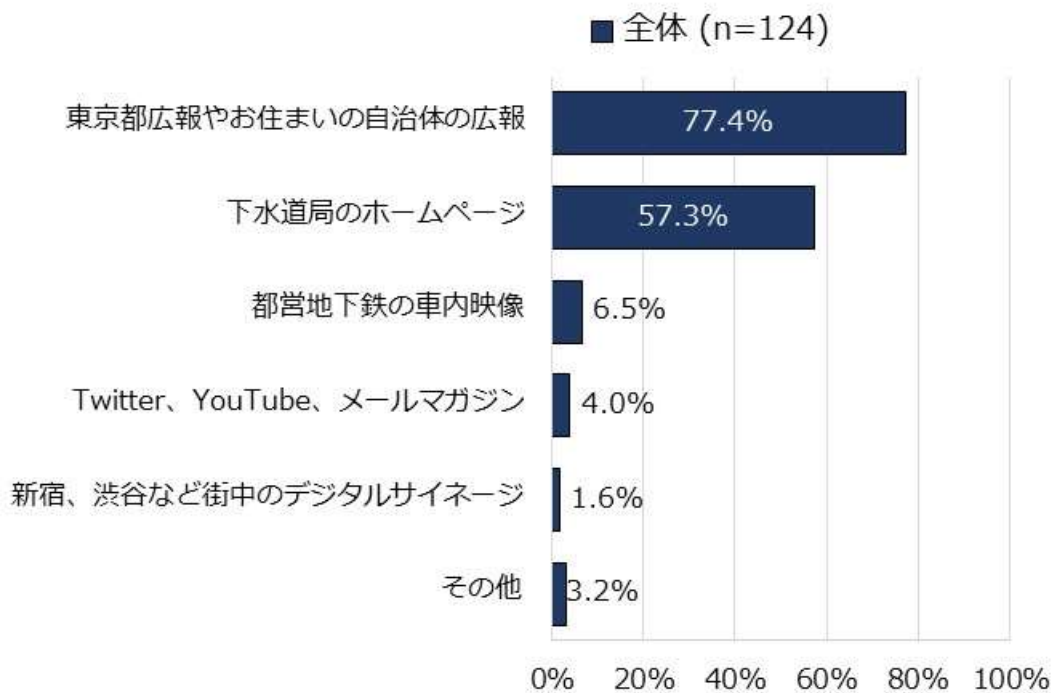
Q5 下水道局では、都民の皆さまでも簡単にできる浸水対策を紹介していますが、ご存知ですか。(単一回答)



(5) 浸水対策の認知経路

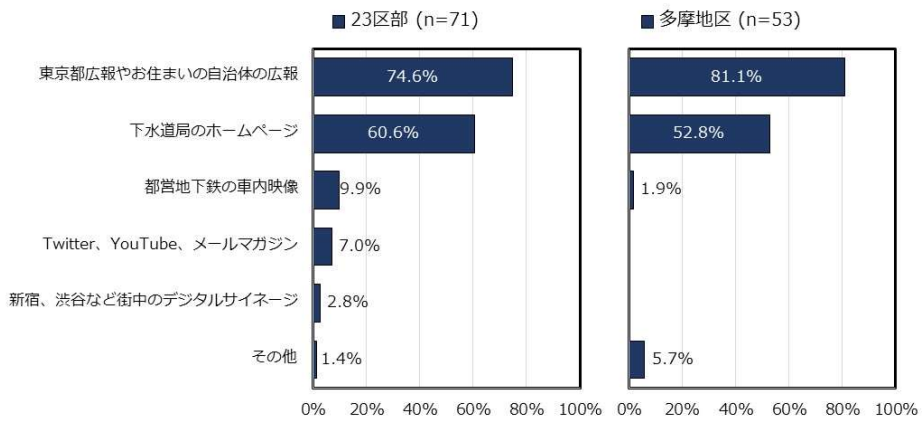
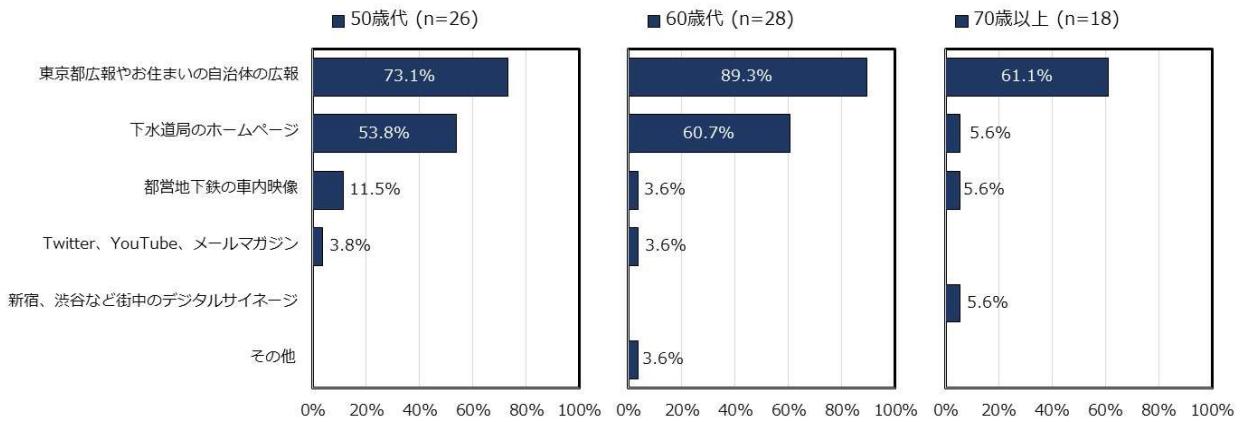
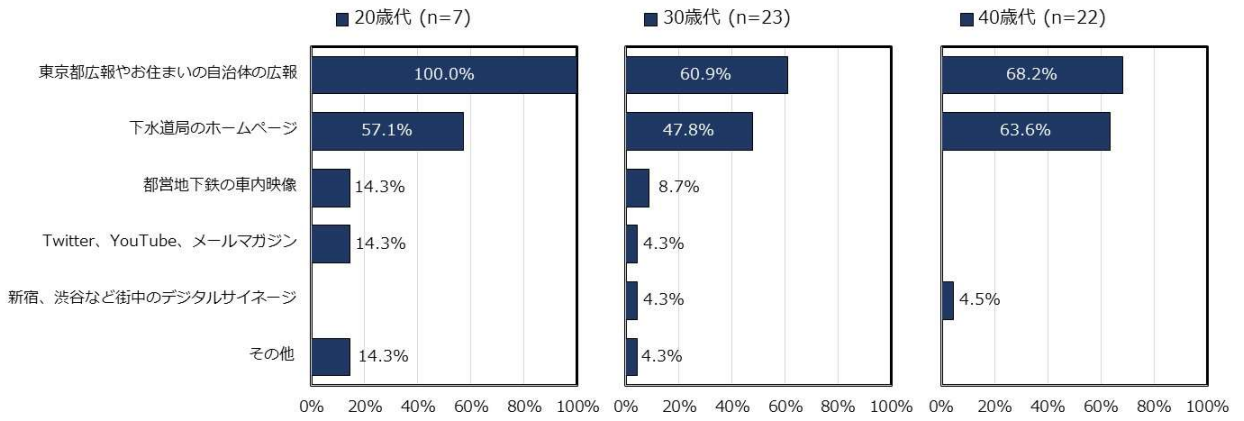
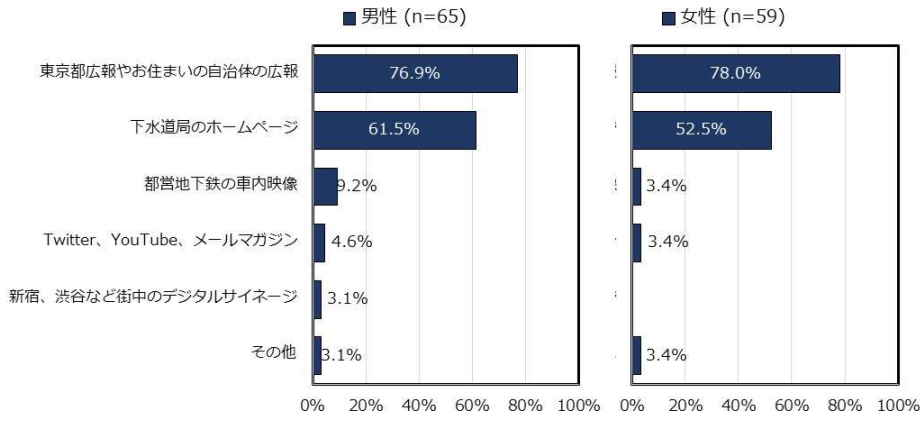
- ◆ 局が紹介する浸水対策を「知っている」と回答した 124 人の認知経路は、「東京都広報や自治体の広報」が 77.4%と最も高く、次いで「下水道局のホームページ」が 57.3%となった。
- ◆ 男女別や年代別、地区別のいずれもで、浸水対策情報を知る媒体は「東京都広報や自治体の広報」と「下水道局のホームページ」が大きな割合を占めていた。

Q5-1 Q5で「知っている」を選択された方にお尋ねします。下水道局が紹介する浸水対策をどこで知りましたか。(複数回答)



「その他」(4件)の自由記述

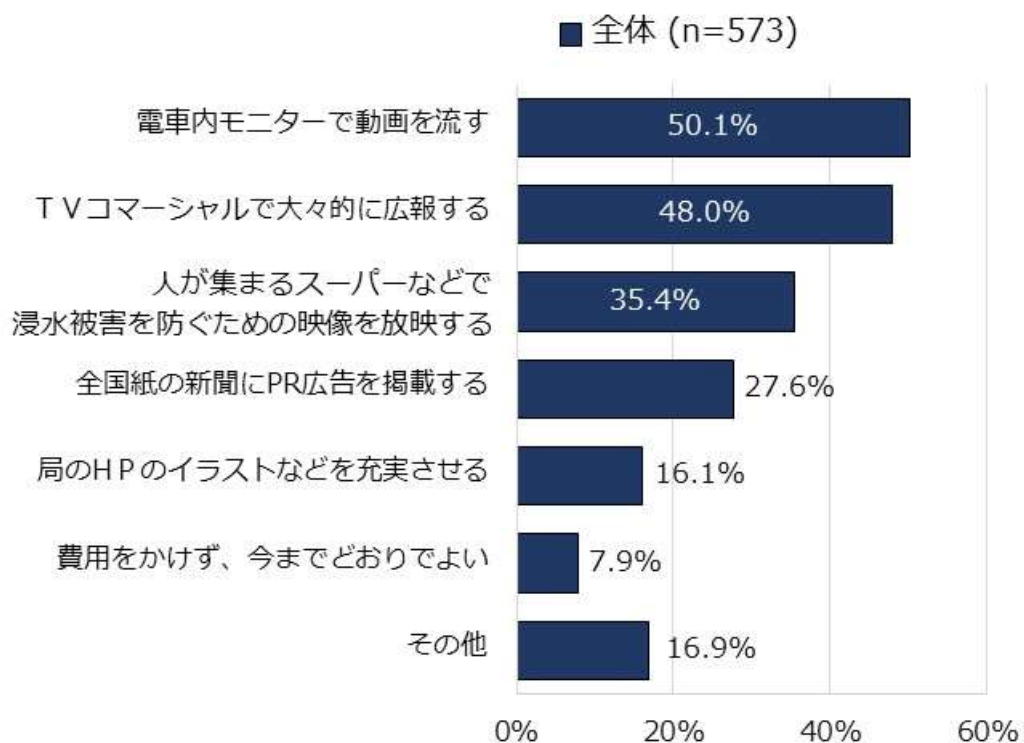
ポスター、技術経験、東京都下水道事業 経営計画 2021、子供が小学校で学習した内容



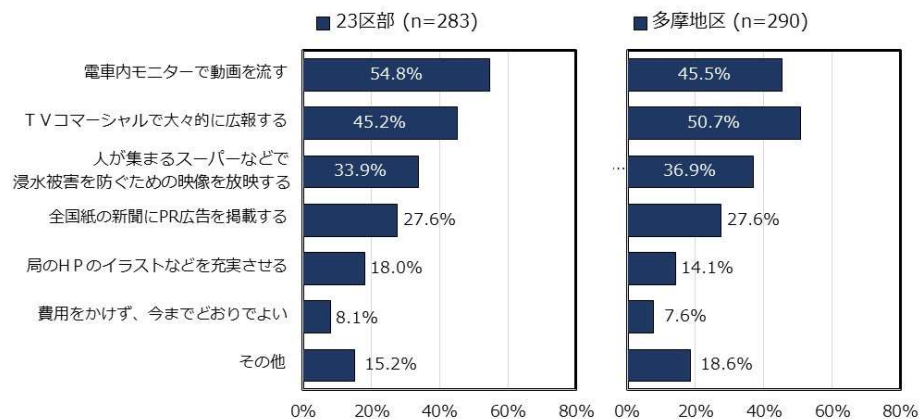
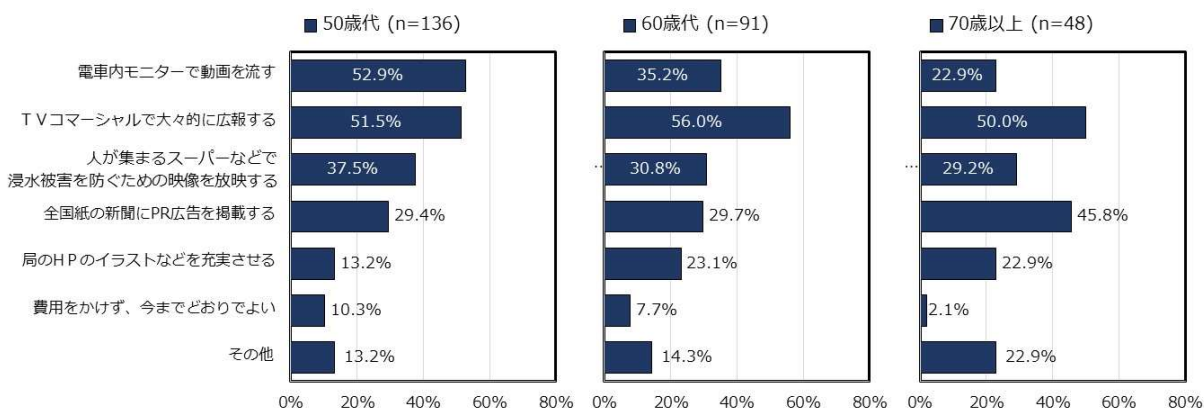
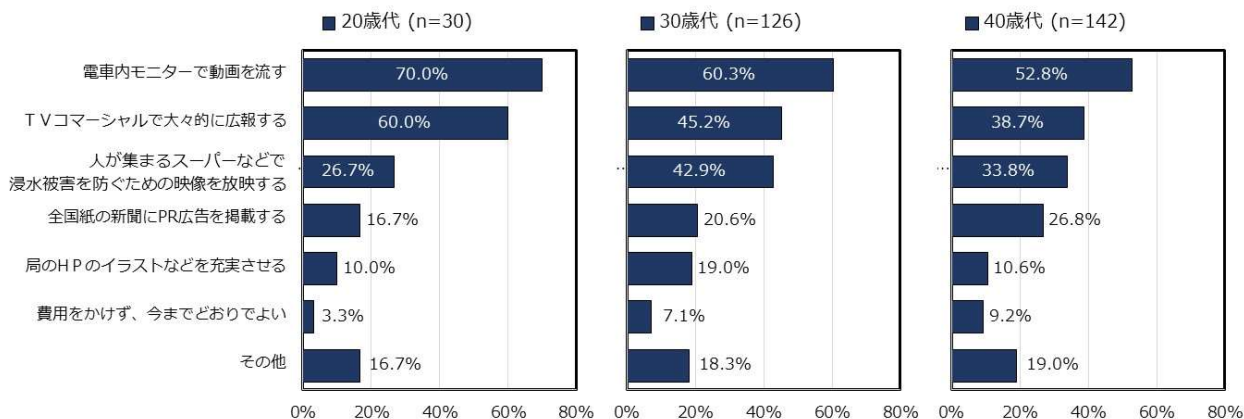
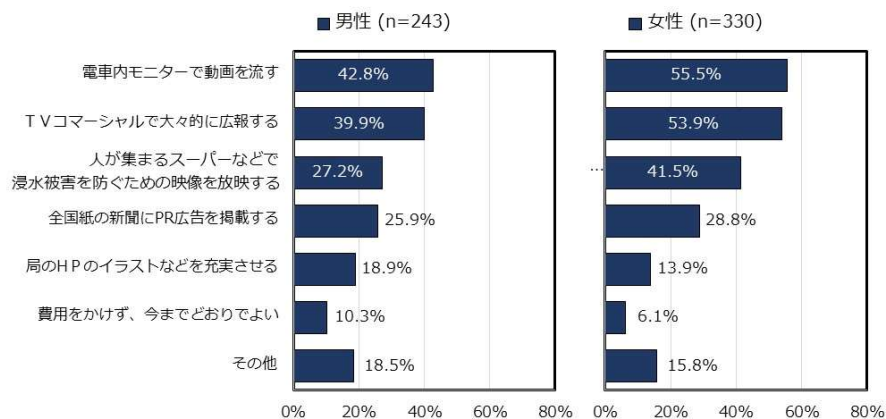
(6) 浸水対策のPR方法

- ◆ 局が紹介する浸水対策を「知らない」と回答した 573 人に、適切と考える浸水対策の PR 方法は「電車内モニターで動画を流す」「TV コマーシャルで大々的に広報する」「人が集まるスーパーなどで浸水被害を防ぐための映像を放映する」が多かった。
- ◆ 男女別で傾向に違いはなかった。
- ◆ 年代別では、年代の上昇とともに「TV コマーシャル」「新聞」等の在来メディアの割合が増加した。

Q5-2 Q5で「知らなかった」を選択された方にお尋ねします。都民の皆さまが自ら対策をしてもらうためのPRとして、どんな方法が適切と思いますか。(複数回答)



「その他」(97件)の自由記述の一部	
区報/市報/新聞に掲載 (26件)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都の広報、各区の広報に掲載する (70歳以上女性) ・町内掲示版や公共施設の掲示版に広告をはる (40歳代女性)
SNSの活用 (15件)	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS広告(Facebook、Instagram、Twitter、YouTube) (30歳代女性)
チラシポスティング (12件)	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭への情報誌配布 (40歳代男性)
イベントなどでの周知 (9件)	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントに参加して知ってもらう (40歳代女性) ・小中学生向けのイベントをきっかけに家族で情報共有する (30歳代女性)
YouTube動画の掲出 (8件)	<ul style="list-style-type: none"> ・YouTubeなど動画でアクセスできるPRを行ってほしい。(60歳代男性)
Web広告 (8件)	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットのバナー広告で流す (40歳代女性)
その他 (19件)	<ul style="list-style-type: none"> ・TV番組で映像や画像で見ると理解しやすく印象に残りやすい (50歳代女性) ・学校での教育 (40歳代女性)

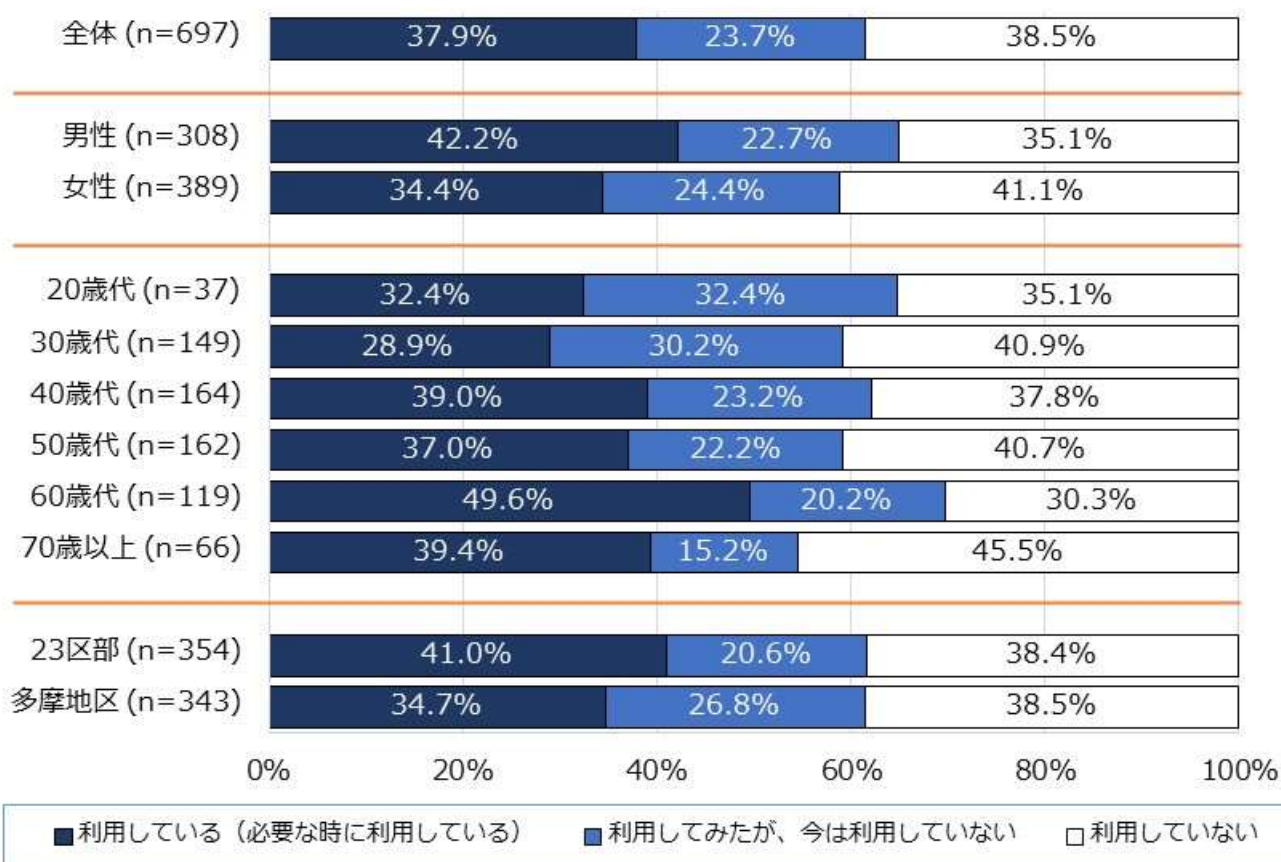


3 「東京アメッシュ」に関する設問

(1) 「東京アメッシュ」の利用

- ◆ 「東京アメッシュ」の利用経験者（利用している、利用してみたが今は利用していない）は 61.5%で、第1回アンケートの利用経験者割合（「東京アメッシュ」を知っている（利用している・利用したことがある）26.7%）よりも増加した。
- ◆ 男女別では、「利用している」で男性が女性より7.8ポイント高かった。
- ◆ 年代別では40歳代から70歳以上の約4割から5割近くが「利用している」と回答した。

Q6 あなたは、「東京アメッシュ」をご利用になりましたか。（単一回答）

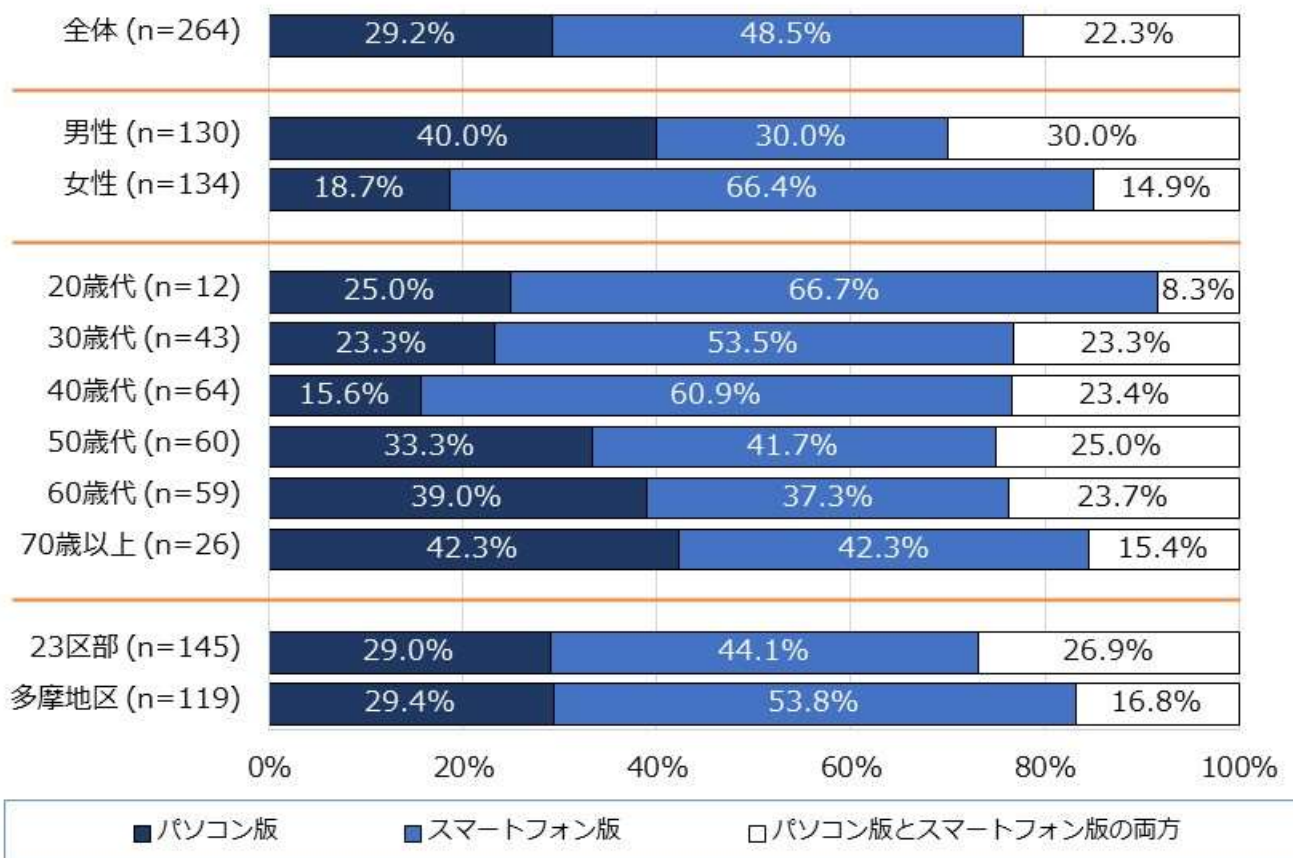


(2) 「東京アメッシュ」の利用タイプ

- ◆ 「利用している（必要な時に利用している）」と回答した 265 人は、スマートフォン版の利用が多かった。
- ◆ 男女別では、「スマートフォン版」の利用は男性が 30.0%、女性が 66.4%と、女性が男性より 36.4 ポイント高かった。
- ◆ 年代別では、「パソコン版」の利用は、年代の上昇とともに高い傾向にあった。「スマートフォン版」の利用は 20 歳代が 66.7%と最も高く、年代の若い層は「スマートフォン版」の利用が多かった。

Q6-1 Q6で、「利用している（必要な時に利用している）」を選択された方にお尋ねします。

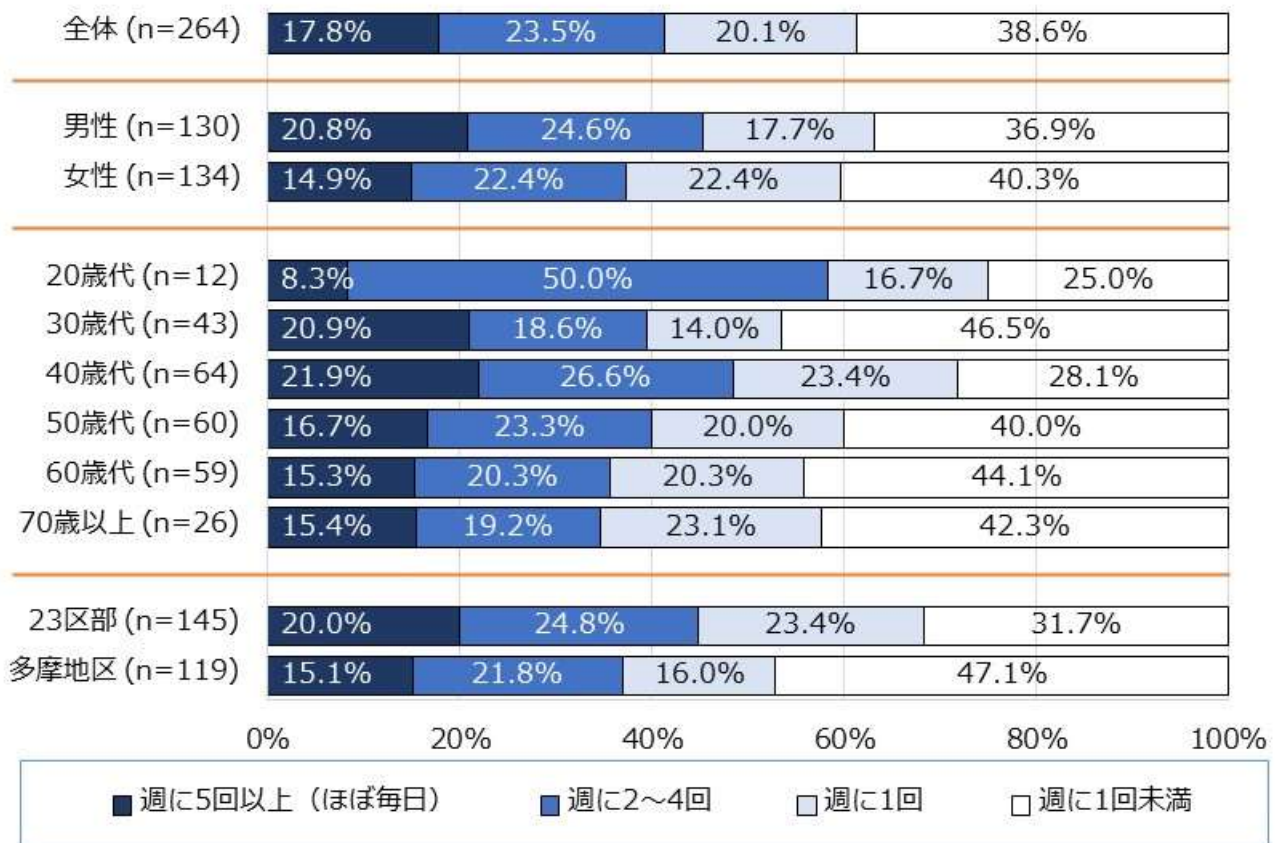
あなたは、「東京アメッシュ」について、パソコン版、又は、スマートフォン版のどちらをご利用になりましたか。以下の選択肢から、該当するものを一つだけお選びください。あなたは、「東京アメッシュ」をご利用になりましたか。（単一回答）



(3) 「東京アメッシュ」の利用頻度

- ◆ 「利用している（必要な時に利用している）」と回答した 265 人の利用頻度は「週に 1 回未満」が最も多かったが、「ほぼ毎日」との回答も 17.8%あった。
- ◆ 男女別では、男性の方が女性よりも利用頻度が高かった。
- ◆ 地区別では、23 区部の方が多摩地区よりも利用頻度が高かった。

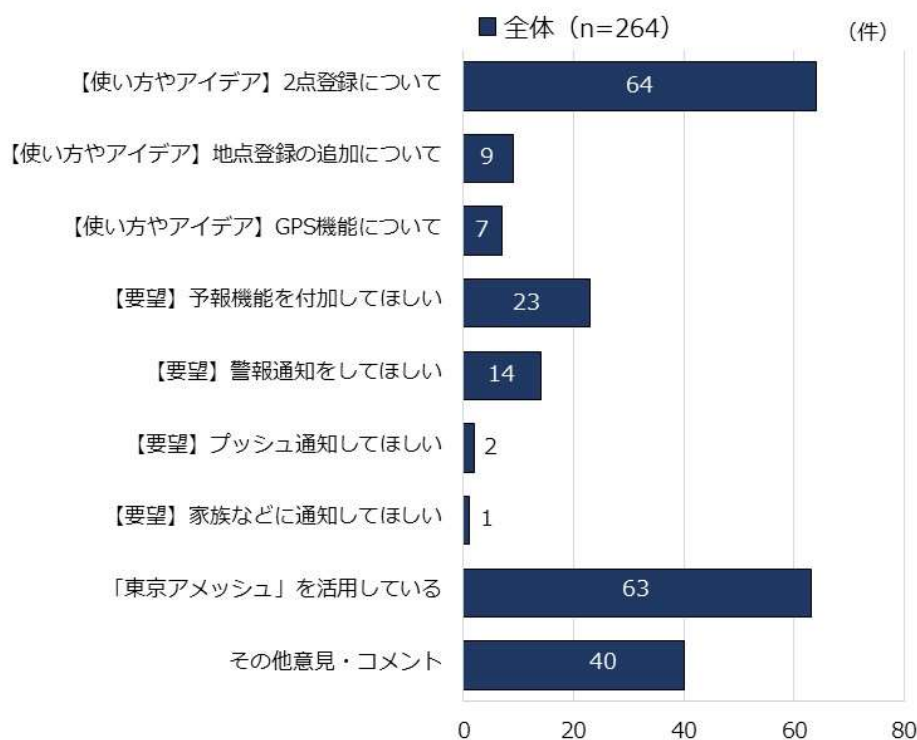
Q6-2 あなたは、「東京アメッシュ」をどのぐらいの頻度で、利用されていますか。(単一回答)



(4) 「東京アメッシュ」(スマートフォン版)の機能活用

- ◆ 東京アメッシュのGPS機能に関する設問に対して、自由回答は264件寄せられた。
- ◆ スマートフォン版の機能を活用した使い方や使い方に関するアイデアは77件で、そのほか「東京アメッシュ」を活用している感想や、付加してほしい機能や要望が挙げられた。

Q6-3 「東京アメッシュ」スマートフォン版は、スマートフォンのGPS機能を活用して、地図上の現在地の表示や、任意に登録できる2地点までの降雨状況が一目で把握できるようになりました。この機能を活用したあなたの使い方や、使い方に関するアイデアをお聞かせください。(自由回答)



●GPS機能を活用した使い方、使い方に関するアイデア

2点登録について(64件)、地点登録の追加について(9件)

- ・2地点登録できるという事なので、離れて生活している家族の居住地を登録したい。(50歳代女性)
- ・家と会社の雨の状態と、途中の状態がわかるように使いたい。(50歳代男性)
- ・自宅と職場などを登録することで同じ都内でも降雨状況がちがうことがわかるので服装や対策を考えることができる(20歳代女性)
- ・外出先の離れたところから自宅周辺の降雨状況を調べたりしています。要望ですが、登録できる箇所をもう少し増やしてほしいです。(40歳代女性)

GPS機能について(7件)

- ・自分のいる場所を把握することでこの先の雨の予想を確認しながら行動できる点に活かせるようにした。(20歳代男性)
- ・ブラウザ版にも位置情報を活用した機能がほしい(30歳代男性)

●要望等

予報機能を付加して欲しい (23 件)

- ・数時間先の雨雲の予想も表示されるとなお使いやすい (50 歳代女性)
- ・雨雲接近予測アラートを希望者がセットできるようにする。降雨予測の配信なども取り入れて欲しい。地図拡大レベルをあげて欲しい。 (50 歳代男性)

警報通知してほしい (14 件)、プッシュ通知してほしい (2 件)、共有機能が欲しい (1 件)

- ・アラーム警報と GPS 連動する (70 歳以上男性)
- ・現在地に対し、今後急な降雨が予想される場合に、プッシュ通知を出してほしい。(40 歳代男性)
- ・子供のスマホやキッズ携帯にアメッシュの情報 (登録している地域の降雨情報) が通知されるといいなと思う。子供のスマホやキッズ携帯に降雨情報が通知されると、子供が自分で折り畳み傘などの雨具を持って出かけられるため。 (40 歳代女性)

●その他の回答

「東京アメッシュ」を活用している (63 件)

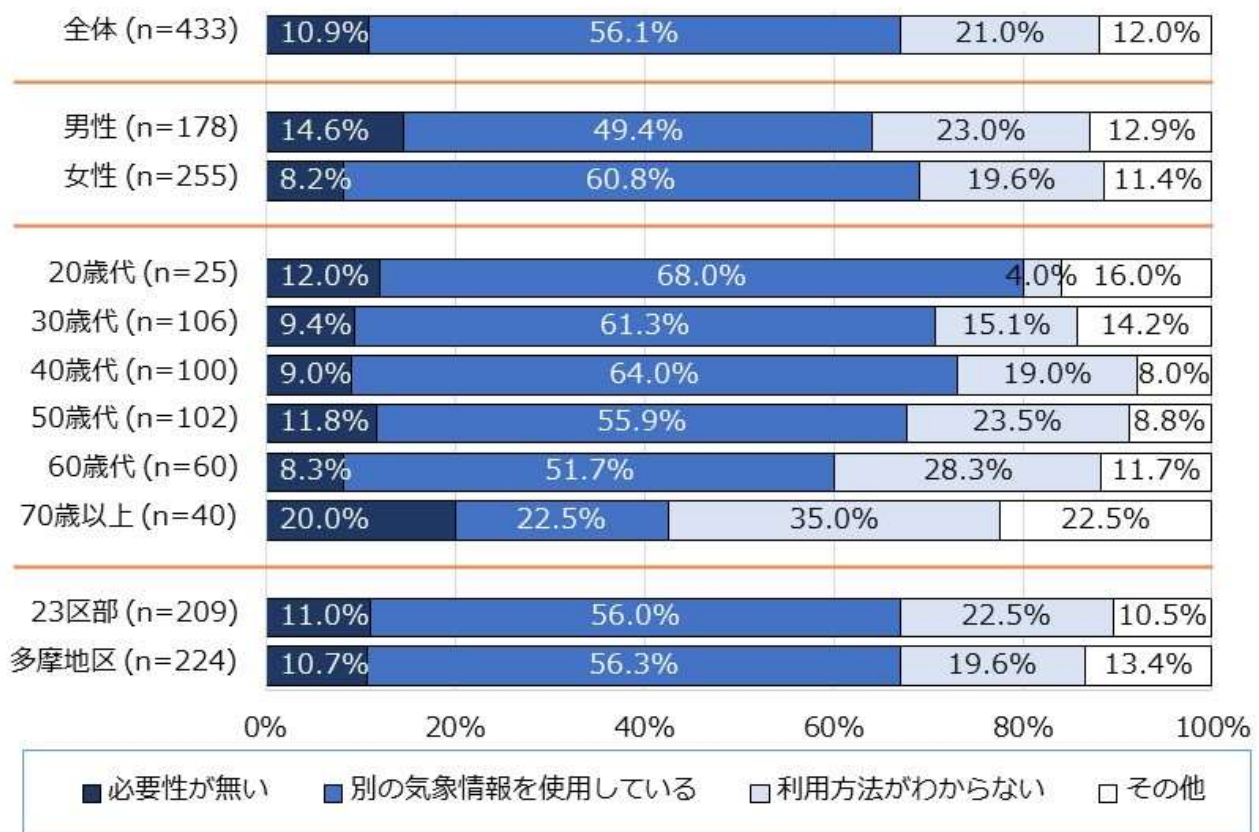
- ・降雨の過去から現在までの動きで自ら雨が降るかを予測して外出等の時間を調整しています。 (40 歳代男性)
- ・雨雲の流れが 120 分前にさかのぼって分かるので、ある程度の雨予想が自分でもでき、雨対策ができています。ありがとうございます。すぐにアクセスできクイックレスポンスなのもいい。5 分おきの更新もほぼリアルタイムで助かっている。 (50 歳代男性)

(5) 「東京アメッシュ」を利用しない理由

- ◆ 「今は利用していない」「利用していない」と回答した433人の利用しない理由は、「別の気象情報を使用している」が最も多く、「必要性が無い」との回答は約1割だった。「利用方法がわからない」との回答は約2割だった。
- ◆ 年代別では、若年層が「別の気象情報を使用している」が高めであるのに対し、年齢が高くなると「利用方法がわからない」の回答割合が増加した。

Q7 Q6で、「利用してみたが、今は利用していない」及び「利用していない」を選択した方にお尋ねとお知らせをします。

あなたは、なぜ、「東京アメッシュ」を利用しなくなった、又は、利用していないのですか。(単一回答)

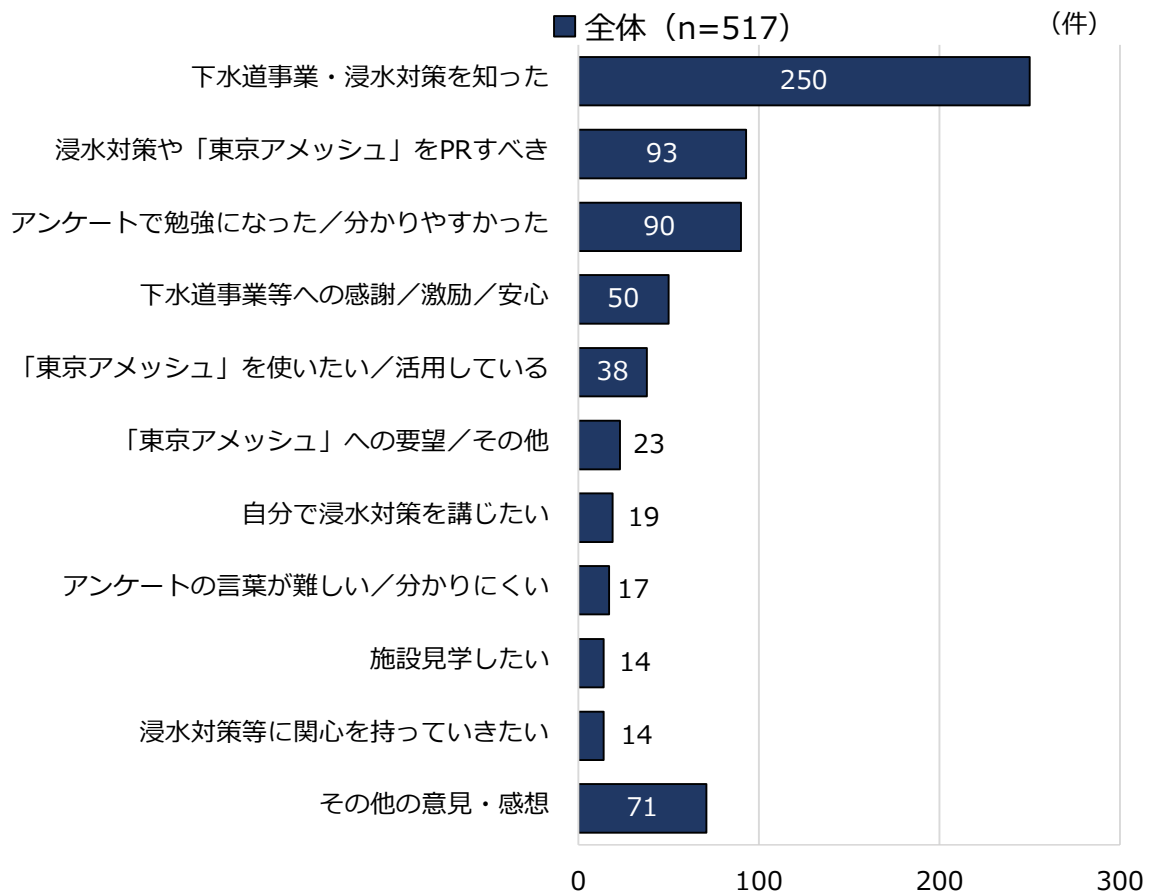


「その他」(52件)の自由記述の一部	
他のアプリ/方法を利用しているため (16件)	<ul style="list-style-type: none"> ・他のアプリを利用している (50歳代女性) ・他の天気予報より、難しそうにみえる (70歳以上女性)
知らなかった/忘れていたため (16件)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回紹介されてから忘れていた (50歳代女性)
その他 (20件)	<ul style="list-style-type: none"> ・関東広域の雨雲の動きを予測も含めて確認したい。 (30歳代男性) ・欲しい情報は予想だから (60歳代女性)

4 局へのご意見・ご要望

- ◆ アンケート内容や下水道局へのご意見・ご要望についての回答率は74.2%となった。
- ◆ アンケートやモニター活動で「下水道事業・浸水対策を知った」等の意見が最も多く、次いで「浸水対策や「東京アメッシュ」をPRすべき」が多かった。

Q8 今回のアンケート内容（本アンケートに回答したことで、イメージが変わられた方はその理由など）、および東京都下水道局へのご意見・ご要望等がございましたら、お聞かせ下さい。（自由回答）



【アンケート内容や下水道局へのご意見・ご要望】

下水道事業・浸水対策を知った	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲリラ豪雨での被害は散見されますが、昔に比べると特に都心部での浸水被害は減少している気がします。これだけの対策をしているのだなと感心致しました。（50歳代女性） ・これからの季節 集中豪雨が発生しやすいので 今回の内容はとても参考になりました。東京都下水道局の仕事、生活に直結していることが良くわかりました。（60歳代女性） ・細かい所に、下水道の整備をしていることが分かった。外でよく工事を見るが、何をしているのだろうと思っていた。こういう工事をしていると、工事の現場に張り紙やボードに書いておくと皆の理解も深まる。洪水の危険のある時代、下水道整備の大切さをもっとPRしたい。（60歳代女性）

浸水対策や「東京アメッシュ」をPRすべき	
	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化で日本の気象が大きく変わろうとしています。大雨による洪水対策はとても大切だと思います。ぜひ、下水道局の取り組みを広く都民に知ってもらうようにしてほしいです。（60歳代男性） ・アメッシュを知らない人が多いので、とてもいいサービスなのにもったいない。もっとアピールするべきだと思う（30歳代女性）
アンケートで勉強になった／分かりやすかった	
	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、アンケートに答えたことで、色々な対策がなされていることを知る機会になり、大変勉強になりました。これらのことを、一般の人達に工夫してお知らせ頂きたいと思います。（50歳代女性） ・取組の説明が図式されていてわかりやすかった（50歳代女性）
下水道事業等への感謝／激励／安心	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲリラ豪雨が頻発しています。下水道整備は非常に大事な防災対策ですので引き続き取り組み強化をお願いします。期待しています。（60歳代男性） ・浸水対策の取り組みの重要性を非常に高く評価します。（50歳代男性） ・近年の集中豪雨に関して、今後の対策がよく考えられていることがわかり安心しました。（40歳代女性）
「東京アメッシュ」を使いたい／活用している	
	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的にはアメッシュは気象庁や他のアプリと比較してすごく見やすくまた使いやすいと思っています。雨水対策と合わせて、響く方法でアピールされることを期待しています。（60歳代男性） ・アメッシュは雨天時の犬の散歩に雨の止む時間を探すに活用しています。大変便利で信用度が高く助かっています。（70歳以上男性）
「東京アメッシュ」への要望／その他	
	<ul style="list-style-type: none"> ・アメッシュはとても便利でしたが、1時間後、2時間後、3時間後などの予想図も見られたらとても便利だと思います。（50歳代女性） ・堅苦しくて難しいイメージがあるので、専用のアプリなどをつくってほしいです。（30歳代女性）
自分で浸水対策を講じたい	
	<ul style="list-style-type: none"> ・これから台風も来るので我が家でも出来る対策を考えて対応したい。（50歳代女性） ・大雨などに備え、色々な対策が施されていることがよく分かりました。被害を少しでも小さくするために、幹線やポンプ施設の整備など、様々な工夫で私たちの生活を守っていただいているのだと思いました。私自身、ハザードマップをチェックするだけでなく、土のうを置くなど、具体的な対策を考えていかなければならないと感じました。（20歳代女性）
アンケートの言葉が難しい／分かりにくい	
	<ul style="list-style-type: none"> ・説明がもっとわかりやすいとよい。まだまだわかりにくい所がある。基本用語とされているものも知識がない人にはさらに説明が必要。（40歳代女性） ・今回の説明だと字が多くてあまり頭に入っていかなかった。絵の説明もあったが、もう少し工夫しわかりやすくなると良いなと思いました。（30歳代女性）

施設見学したい	
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ下であっても、見学会等の取組は実施して欲しい。実際に見ることによって、関心の度合いや理解度、当事者意識が大いに進展する。(70歳以上男性) ・下水道対策の現場を実際に見学に行ってみたい。実際の見学が一番いいが、このご時世なので、オンラインツアーなどがあってもいいのではないか。(40歳代男性)
浸水対策等に関心を持っていきたい	
	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらにきてから浸水など、水災害には合ったことがないので、ちょっと油断していたかなと思います。浸水対策のページを見ようと思います。(50歳代女性) ・浸水について考えたことが無かったので、家族で話し合いしようと思います。(50歳代女性)
その他の意見・感想	
	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は75ミリ以上の雨についても、想定しておくべきではないでしょうか。(40歳代男性) ・洪水による災害も多くあり、水場の近くじゃないから関係ない、という考えを改めることができました。(20歳代女性)